

高等学校における教科指導の充実

外国語科（英語）

4 技能の有機的な関連を図った指導の在り方

- 「書くこと」に焦点を当てて -

栃木県総合教育センター

平成18年3月

ま え が き

栃木県では、平成13年度に「とちぎ教育振興ビジョン」を策定し、新しい時代への展望に立った教育計画に基づいて、様々な教育施策を推進してきました。その基本理念は「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」においても引き継がれ、事業を展開するにあたっての視点の一つとして「学ぶ力をはぐくむ教育の充実」が盛り込まれています。

また、学力に関する国際的な調査や教育課程実施状況調査によって、生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされてきました。これらの調査の報告書においても、学力向上のための提言がなされています。

これらのことから、総合教育センターでは、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」事業を新たに起こしました。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、学力の向上に資することにあります。今年度は、国語科、地理歴史科、数学科、外国語科（英語）の4教科において、教育課程実施状況調査等の調査結果から指摘されている課題を踏まえ、その解決を図るための授業改善の方策等について研究に取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を、各学校の実情に応じて有効にご活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成18年 3 月

栃木県総合教育センター所長

佐 藤 信 勝

目 次

はじめに	1
事例 1 Oral Communication (第 1 学年)	
- ドラマ作成を通じての表現力の向上等 -	2
事例 2 Writing (第 3 学年)	
- リーディング活動と結びつけたライティング活動等 -	1 5
事例 3 Writing (第 3 学年)	
- 文と文をつなぐ語句に注意しながら書く指導等 -	2 8
おわりに	3 9

4 技能の有機的な関連を図った指導の工夫

- 書くことに焦点を当てて -

はじめに

英語科では、学習指導要領の趣旨に則り、平成14年度高等学校教育課程実施状況調査の結果から指摘されている課題を踏まえ、研究テーマを「4技能の有機的な関連を図った指導の工夫～書くことに焦点を当てて～」として研究を行った。

教育課程実施状況調査報告書では、「短い文は書けるが、内容にまとまりのある一貫した文章を書く力が不十分」なので「まとまりのある一定量の文章を書かせるような指導を工夫」するよう指摘している。また、同報告書は次のような指導の工夫を紹介している。

- ・実際の生活場面に即して、文字を媒介にしてコミュニケーションを行わせる活動や「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」と有機的に関連付けて「書くこと」を行わせる。
- ・読んだ教材などを題材にして、あらかじめ必要な語句や文の数を指定して文章を書かせる。
- ・生徒がより一層「書いてみたい」と思うような課題設定をし、書く作業を行わせる前にトピックについて話し合わせたり、意見を交換させたりするなど書く内容を明確にさせる。
- ・聞いたり、読んだりした内容について英語で話させ、その次に、話した内容について書かせ、文法的な検証をさせるなど、「話すこと」と「書くこと」の活動を組み合わせる。
- ・文と文をつなぐ語句や段落の構成に注意しながら読んだり、書いたりできるようにする指導を進めることが重要である。

今回の研究では、上記の指摘を参考にしつつ、研究協力委員の学校の実態に応じて指導を工夫し実践することとした。**事例1**は、0C の教科書に沿って、さまざまなタスクを工夫し、最後にグループごとにドラマを作成させた。**事例2**では、コミュニケーション・ライティング、映画の吹き替え、最後に、リーディング活動とライティング活動を結び付ける指導を工夫した。**事例3**では、文と文のつながり語句の指導から、ある程度まとまった文章を書く活動を実践した。各事例においては、次の点に留意した。

英語を話したり、書いたりするのは楽しいと生徒が思えるものにすること。

興味・関心がもてるタスクをはじめに示し、段階的に指導すること。

聞き手や読み手を意識させ、話したり書いたりする活動を設定をすること。同時に、共に学ぶ友の存在に気付かせ、自分にもできたという「成功体験」を重視すること。

正確さにこだわらず、書いてみたい、伝えたいという気持ちを大切にすること。

誤りを教師が訂正するのではなく、生徒に訂正させる糸口を示し「気づき」を重視すること。

<研究協力委員>

栃木県立宇都宮東高等学校	教諭 吉 澤 宏 幸
栃木県立真岡高等学校	教諭 田名網 敏 雄
栃木県立矢板高等学校	教諭 田 代 由 紀

<研究委員>

栃木県総合教育センター研修部 副主幹 佐 野 宏 夫

事例 1 Oral Communication I (第 1 学年)

タスク活動を通じての表現能力の向上

1 指導目標

飲食店で注文するときの表現を定着させ、未習表現の習得に興味をもたせる。また、クラスメイトの会話や発表を聞き、コミュニケーションへの興味・関心を養う。

2 評価規準 (タスク活動)

関心・意欲・態度(A)	表現の能力(B)	理解の能力(C)	知識・理解(D)
間違ふことを恐れず自分の注文を伝えている。	目的に応じて店で適切に注文することができる。	聞かれたことに対して店員として適切に応じることができる。	店において注文するときの表現や語句を知っている。

3 指導過程 (指導計画)

時限	指導内容	評価の観点
1	飲食店における基本的な表現の提示・確認	D
2	テキストのリスニング問題・スピーキング活動 (ペアワーク)	B,C
3	スピーキング活動 (ペアワーク) 課題解決型のオーラル活動 (英語での注文に挑戦)	A,C

テキストを使用して “I'd like to have ~.” や “That's all.” 等の表現を導入し、リスニング問題やペアワーク等のスピーキング活動で定着を図った。その後、第 3 時限目に「飲食店での課題を解決しながら注文を完了させる」というタスク活動を行った。以下に示すのが生徒との実際の対話である。

設定場面 1 : あなたは、400 円を持ってファーストフード店に買い物に来ました。ハンバーガーとポテトとコーラを買って帰ってください。

目 標 : 必要な物を注文することができ、ハブニングに対応することができる。

Student N:	Hi!
Teacher:	Hi! May I help you?
Student N:	Yes. I'd like to have a hamburger and French fries and a coke, and your smile!
Teacher:	Smile is 0 yen. What size of French fries and a coke do you want?
Student N:	Large French fries and large coke, please.
Teacher:	All right. So your paying is 500 yen.
Student N:	Really?? Oh, no! I have only 400 yen.
Teacher:	Can't you pay?
Student N:	「まけて」って何て言うんだっけ?
Student S:	'Discount.'だよ。
Student N:	Discount!
Teacher:	No!
Student N: Can I work here now?

Teacher:	Are you sure?
Student N:	Yes. I can do anything; washing dishes, cleaning and so on.
Teacher:	So, brush up the whole floor!
Student N:	Yes, sir!
	(Student N is brushing up the floor.)
Teacher:	Finished?
Student N:	Yes. OK?
Teacher:	How beautiful! Here is your order.
Student N:	Thank you very much! Bye-bye!

設定場面 2 : あなたは、おばあちゃんのお遣いでファーストフード店に来ました。おばあちゃんは入れ歯なので固いものが食べられません。おばあちゃんに優しいメニューを注文してください。

目 標 : 必要な物を注文することができ、細かい要求もすることができる。

Student O:	Hello.
Teacher:	Hello. May I help you?
Student O:	My grandmother is 80 years old. She is very old.
Teacher:	So what?
Student O:	My grandmother has 入れ歯. She can't 噛む.
Teacher:	And?
Student S:	だから、「柔らかいのください」って言えばいいんだよ。
Student O:	Soft, please!
Teacher:	OK. Fish burger is juicy and soft. How about this?
Student S:	OK. One fish burger, please.
Teacher:	For here or to go?
Student O:	To go! How much?
Teacher:	100 yen. Here you are.
Student O:	Thanks. Bye!
	(After the demonstration)
Teacher:	「柔らかいのください」って'Soft, please.'以外にも何かいい表現ないかな？
Student H:	I'd like to have soft foods.
Teacher:	Anything else?
Student T:	'Something soft' とかは？
Teacher:	Good job.

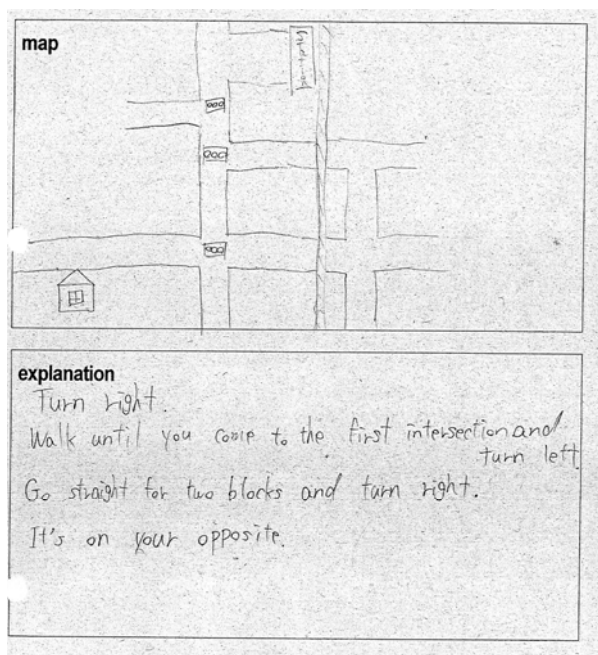
4 他のレッスンでのタスク活動

道案内の表現を学ぶレッスン

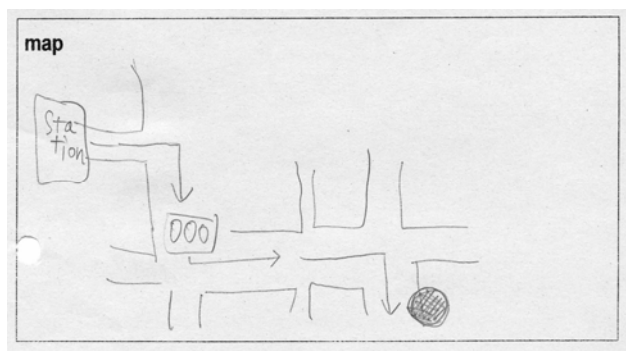
設定場面 1 : 友人があなたの自宅へ遊びに来たいと言っています。あなたは、電話で駅から家までの道を分かりやすく説明しなければなりません。(相手役はあなたの説明を「聞いた」だけで、駅からの道順を地図を描きなさい。)

目 標 : 自分の家の場所を正しく伝えることができ、相手役は友人の説明を聞き、正しく地図に描くことができる。

(生徒 A が作った英文と地図)



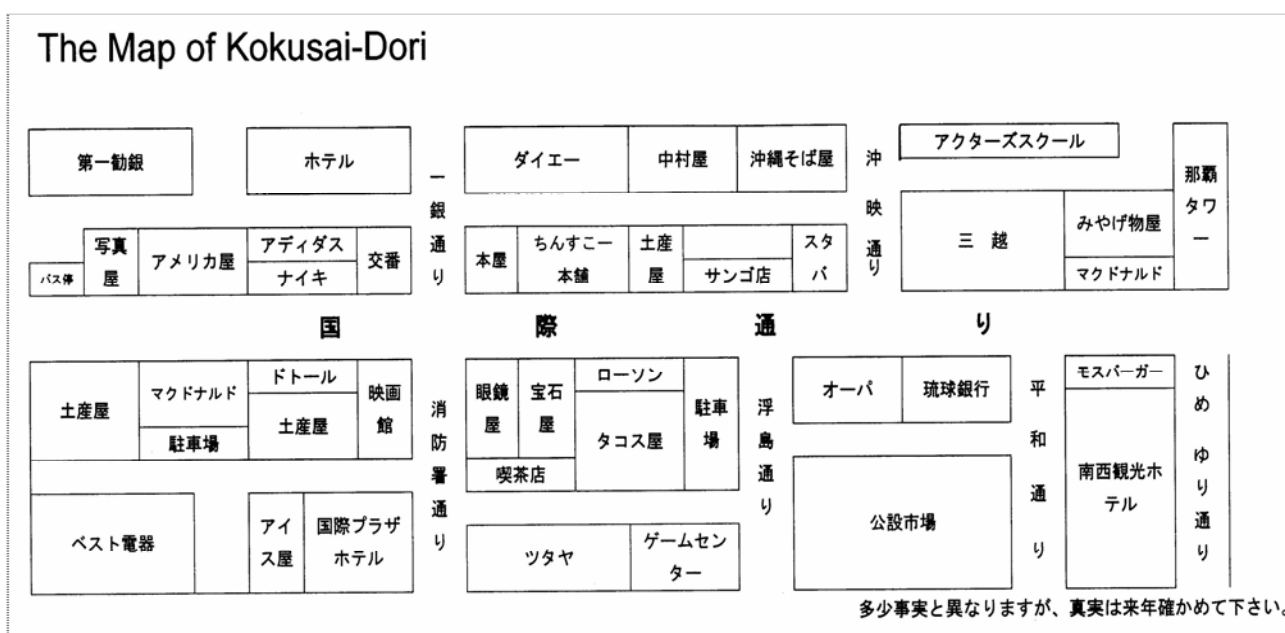
(生徒 B が生徒 A の説明を聞いて描いた地図)



設定場面 2：あなたは、修学旅行で沖縄に来ました。グループ行動の最中に班員が迷子になってしまいました。地図と携帯電話で、あなたが今いる地点まで班員を誘導しなさい。

目標：英語だけで友人を目的地まで誘導することができる。また、友人の英語を聞いて、地図を辿りながら誘導された地点まで辿り着くことができる。

(生徒全員に配布した地図)



(生徒 T と生徒 W の対話)

Student T: Hello. This is T.

Student W: Hello. This is W. I'm lost. Please help me!

Student T: OK. Where are you?

Student W: I'm in the Okinawa-soba restaurant.

Student T: I see. Go straight Okie Street to Kokusai Street.

Student K: Turn right ... No! Turn left and walk two blocks.
Student I: Turn left and turn left.
Student W: What?
Student T: Sorry. Can you see a movie theater?
Student W: Yes.
Student K: Go straight and turn right.
Student W: Daiei?
Student I: No! Get out of Daiei!
Student T: Go straight two blocks. 国際通りを横切って。横切るって何？
Student W: 'Across.' だと思う。
Student T: Across Kokusai Street and turn left. You can see it on your left.
Student W: Kokusai Plaza Hotel?
Student K: Near!
Student W: Ice cream shop?
Student T: OK.

(Hug each other.)

ドラマ作成を通じての表現能力の向上

1 指導目標

「面白い」内容のドラマをライティングから発展させて作ること、既習の表現を定着させる。友人のドラマを見て表現や技術を学習させる。また、人前で英語を話す自信をつけさせる。

2 評価規準

関心・意欲・態度 (A)	表現の能力 (B)	理解の能力 (C)	知識・理解 (D)
(1) 積極的に活動に取り組んでいる。 (2) 自ら学んだ表現などを使ってスクリプト作成に取り組んでいる。 (3) 友人が作成したドラマに関心をもっている。	(1) ドラマを通じて「面白さ」を適切に伝えることができる。 (2) 場面や目的に応じて語句や表現を選択し、適切に話することができる。	(1) 聞いた内容について大切な部分を把握することができる。	(1) 場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 (2) ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割や使い方を理解している。

3 指導過程(指導計画)

時限	活動内容	評価の観点
1 時限目	ドラマ作成の説明・ビデオ視聴・グループ分け	A 1
2 ～ 6 時限目	グループ別のスクリプト作成	A 2、B 1、B 2
7 時限目	グループ別のスクリプト作成・録画・発表順番決め	D 1、D 2
8 時限目	上映発表会・生徒審査	A 3、C 1
9 時限目	審査結果発表・出てきた phrase の解説と復習	A 1、D 1

10 時限目	出てきた phrase の復習	A1、D1
--------	-----------------	-------

(1) ドラマ作成の説明 (1 時限目)

【ワークシート 1】を使い、目的・評価の方法・手順などについて説明した。なお、人前で英語を話す自信を失わせないために、発表は予めビデオで撮影したものを使用することにした。「面白さ」の参考映像として言語音声なしのビデオを見せた。

【ワークシート 1】

英語でドラマを作ろう！！

目的

- ・英語でドラマを作ること、これまで学習してきた表現を定着させたり、「こんなこと言ってみよう」という表現を学習する。
- ・自分自身が英語を話すことで、人前で英語を話す自信をつける。
- ・英語で「面白さ」を伝える学習をする。
- ・級友が撮影したドラマを見て、友人の表現や技術を学ぶ。

手順

- ・ドラマについての説明・参考ドラマ視聴・グループ分け
- ・シナリオ作成（完成したら先生に見せること）スクリプト提出
- ・完成したグループから撮影開始
- ・ビデオ上映、発表会（お互いに審査する）
- ・審査結果発表、みんなが使った表現の復習
授業終了時にはその時間の作業状況を報告

グループ及び撮影について

- ・グループの人数：4～5名
(全ての人が出演し、英語で話す)
- ・グループの名前：自由に決めること
- ・発表時間：各グループ3分以内
- ・撮影時間：授業時間中 or 放課後
- ・撮影場所：学校の敷地内
- ・場面設定：自由とする
- ・小道具等：自由に工夫すること
- ・作品のタイトル：自由に決めること（英語で）

発表について

- ・発表順は直前にくじ引きで決定します

審査について

- グループごとに次の項目で審査します
- ・はっきりと大きな声で話しているかどうか
- ・内容が伝わりやすかったかどうか
- ・面白かったかどうか

個人賞（Best Actors Awards）も投票により決定します

- ・「大きな声ではっきり話していた」で賞
 - ・「頑張って英語で話していた」で賞
 - ・「演技がうまかった」で賞
- ！！！！受賞グループ及び個人に豪華賞品謹呈予定！！！！

注意事項

- ・分かりやすい表現を使うこと
(和英辞典を使うのはいいことだが、難しい単語をそのまま使用しないこと)
- ・全員で協力して取り組むこと
- ・日程を確認して、計画的に取り組むこと

日程（予定）

9月30日（金）	説明
10月4日（火）	スクリプト作成
10月5日（水）	スクリプト作成
	スクリプト作成・撮影
11日（火）	スクリプト作成・撮影
12日（水）	スクリプト作成・撮影
13日（木）	スクリプト作成・撮影
25日（火）	発表・審査

Allan 先生が助けてくれる日があります

(2) シナリオ作成と撮影 (2～7 時限目)

シナリオは和英辞書からそのまま引用してきたような難解な表現は避け、誰にでも分かる表現でスクリプトを作成するように指示を出した。生徒がどのように表現したらよいのか困っている場合は、ALT も含めた教師が支援した。各グループで録画までに2度以上スクリプトを提出させた。

生徒の目的意識を明確にし、やる気を持続させるために、教員出演の英語ドラマを見せた。撮影には授業時間や放課後を利用した。

英語でドラマ

役	セリフ
T	May. I help you?
T	How many <u>pepro</u> ? people 何人?
A	Two <u>pepro</u> .
T	This way please.
O	Thank you.
T	Hi how ^{can} _{can} I help you.
A	コーラ コーラは英語で"coke"らしい。
O	しょうゆ ラーメン
T	OK
	20分 後
T	Here you are?
T	This is all right?
A	No!!
O	Not!!
T	I can't help it. ← 助けて欲しい、でも助けられない状況
A	Not. I can't help it!! ←
T	noisy!!
O	Ah!!!!!!!!!!!!

[illegible]

英語でドラマ

役	セリフ
T	May I help you?
"	How many people?
A	Two people.
T	This way please.
O	Thank you.
T	Hi how can I help you?
A	Orange, Juice
O	Banana.
T	Anything else?
O and A	No.
	20分後 ← 英語で書いてある。
T	Here you are.
"	This is all right? ← 語順を考え
A	No!! この場面ではこんな演出で可?!
O	No!!!
T	We have only coke and apple.
A	I ordered orange juice
T	noisy!!

役	セリフ
O	Ah !!!!!!!!!!!!!!! ← "アハ"は「あー」 驚きや喜びの音で、 「うん？」
S	Everyone
c	Never mind.
all	Who are you?
all	Don't's Don't speak please? peak to us.
S	sorry sorry
O	How much?
T	It's 1000 Yen.
A	Discount, please.
T	Yes!
"	How about 398 Yen?
A	No problem.
S	It's on me.
O and A	Are you serious! ← "?"の方がいい。
S	Sure.
T	Thank you.

?? 数字はちゃんと読み替わりの??

【添削前のグループ B のスクリプト】

英語でドラマ team Echigo		役	セリフ
①	K 氏		Do it sleep, and isn't there something good robot though you have been heard to be making the robot?
	N 博士		And how about this robot if it does?
	K 氏		Besides, isn't there good one?
②	N 博士		Then, how will of this 'human type' about the robot?
			Is done for lord and the aristocrat... bringing...
	K 氏		It has understood, it will decide it for it.
③	K 氏		Are you, and what can (the robot) do?
	ロボット		Yes, it moves like you orders.
	K 氏		cut. I'm afraid.
	K 氏		Does not that alone be by you and exist without doing work to ask when it is necessary to put it?
			How what is when saying.. it's a huge to be..?
	K 氏		Such a robot was sold and applied with...
	N 博士		Ah? ... the passing of the leave will. That robot has given that setting from the origin.
			? on the island... happy... leave alone

【添削後のグループ B のスクリプト】

(K 氏の背中から研究所の中を写す)		N 博士	Because it really looks like you.
K 氏	Sleeping? Are there any good robots? Are you making a robots?		(うなだれて帰る K 氏の背中を写す)
N 博士	What type of human robots? I want to sell a robot.		
(ロボットのアップシーン)	ロボット		このオチは難しいが、それだけに面白いですね。
K 氏	Well... O.K. It really looks like a human.		
(ロボットと K 氏)	K 氏		
K 氏	今何時?		
ロボット	10時30分		
K 氏	What time is it?		
ロボット	Ten thirty.		
K 氏	What is the date today?		
ロボット	August 22nd.		
(ロボットが暴れているシーン)			
(K 氏が N 博士に会いに来る)	K 氏		
K 氏	Why did you sell such a crazy robot?		

(3) ビデオ上映による発表会 (8 時限目)

【ワークシート 2】を使い、全員が全てのグループに対して「大きな声ではっきりと話していたか」「内容が伝わりやすかったか」「面白かったか」を 5 点満点で審査した。また、個々の生徒の頑張りを促すために「大きな声ではっきり話していた」「頑張って英語で話していた」「演技がうまかった」の 3 つの個人賞も併せて審査した。

【ワークシート 2】

英語でドラマ 評価シート

グループ賞審査

各グループの次の項目について 5 点から 1 点に をつけて
審査してください

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

グループ名【 】					
はっきりと大きな声で話している	5	4	3	2	1
内容が伝わりやすい	5	4	3	2	1
面白かった	5	4	3	2	1

個人賞審査

次の各賞に最も適していると思われるクラスメイトの名前を
1 人だけ記入してください

「大きな声ではっきり話していた」で賞	
「頑張って英語で話していた」で賞	
「演技がうまかった」で賞	

(4) 審査結果発表及びドラマで使用された表現の復習 (9 ・ 10 時限目)

ドラマの中に出てきたフレーズをプリントにまとめて復習した。

【ワークシート 3】

Let's make drama!! ~ Review Sheet ~

In a restaurant Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.

- ① いらっしゃいませ。()
- ② 何名様ですか？()
- ③ 他にご注文は？()
- ④ どうぞ。()
- ⑤ コーラとバナナで2000円を請求して、「まけてくれ」と言われたTウェ이터が"How about 300 yen?"と言ったセリフ()
- ⑥ 300円と言われて払おうとしていたOとAにSが"It's on me."と言ったセリフ()
- ⑦ ⑥のセリフを言ったSにAが"Are you serious?"と言ったセリフ()

Urashima-Tarou Put ① and ② in English, and ③ and ④ in Japanese.

- ① 名前は？()
- ② 何歳ですか？()
- ③ I 亀をいじめているKに浦島太郎のBが"No, domestic violence!"と言ったセリフ。()
- ④ F 乙姫が玉手箱を渡しながら言った"Here is the Tamatebako."()

Robot Put ① to ③ in English, and ④ to ⑥ in Japanese.

- ① 何時ですか？()
- ② 誕生日はいつ？()
- ③ 何が起きたんだ？()
- ④ ロボットを買いに来たGにR博士が"What type of human robots?"と言ったセリフ()
- ⑤ crazyなロボットを売りつけたR博士にGが"Why did you sell such a crazy robot?"と言ったセリフ()
- ⑥ ⑤の質問に対してR博士が"The robot really looks like you."と言ったセリフ()

Syoten Put ① and ② in English, and ③ to ⑥ in Japanese.

- ① 司会のDです。()
- ② 今日はこれでおしめです。()
- ③ 司会のDが番組の始めに言った"Let's start by introducing ourselves."というセリフ()
- ④ お題に対してHが答えた"Three years ago, on the chimney, Draemon appeared."というセリフ()

- ⑤ お題に対してCが答えた"Yesterday in the park, Father and Mother fought."というセリフ()
- ⑥ お題に対してFが答えた"Five years ago, in the sky high, Grandfather fought against the devil."というセリフ()

Touch Put ① in English, and ② to ④ in Japanese.

- ① お前なんかやっつけてやる！()
- ② Eのボールを打てなかったOが"Shit!"と言ったセリフ()
- ③ 応援しているYが"He did it!"と言ったセリフ()
- ④ キャッチャーのNがEに"Cheer up!"と言ったセリフ()

The police Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.

- ① どうすればいいんだ？()
- ② 君なら空も飛べるはずだよ。()
- ③ 気楽にね。()
- ④ ベストを尽くせよ。()
- ⑤ 犯行を断定しているH捜査官にZ容疑者が言った"Why do you say so?"と言ったセリフ()
- ⑥ ⑤に大してH捜査官が言った"This is the evidence. Your fingerprint."と言ったセリフ()
- ⑦ いきなり犯行を認めたZ容疑者にH捜査官が言った"Pardon?"というセリフ()

Winter Mafia Put ① to ④ in English, and ⑤ to ⑦ in Japanese.





- ① おめでどう！()
- ② 泣かないで。()
- ③ 奴らおかしいよ。()
- ④ 俺もそう思うよ。()
- ⑤ キスをした後のBの"Your lips taste grapes."というセリフ()
- ⑥ 冗談でキスに料金を請求した後で、「いくら？」と聞かれたBが"Priceless."と言ったセリフ()
- ⑦ BがHGの真似をして"My waist spins very fast."と言ったセリフ()
- ⑧ Yと去っていったAがBに"I'm dating with him."と言ったセリフ()
- ⑨ 泣き崩れるBをなぐさめて、Yが"I think you're a special baseball player."と言ったセリフ()

Ⅲ 定期テストにおける評価について

授業で、扱った「タスク活動」や作成した「ドラマ」をもとに定期テスト問題を作成した。予め似たような問題を授業時に提示してから出題した。以下がその一部である。

出題例 1

今あなたはハンバーガー店にいます。次のものが欲しいときには何と云えばいいでしょうか？

<p>(1)</p>  <p>cheeseburger vanilla shake</p>	<p>(2)</p>  <p>fish burger apple pie</p>
<p>(3)</p>  <p>hot dog coffee</p>	<p>(4)</p>  <p>cheeseburger orange juice</p>

生徒 H の解答

(1) I'll have a cheeseburger and a small french fry and a small vanilla shake. $\frac{4}{5}$

(2) I'll have a two fish burbers and an apple pie. $\frac{4}{5}$

(3) I'll have a hotdog extra mustard and a coffee. $\frac{4}{5}$

(4) I'll have a cheeseburger no onion and an orange juice. $\frac{4}{5}$

出題例 2

あなたは笑点に出演しています。 "When? Where? Who? What?" という質問に面白く答えなければなりません。何と答えますか？

When?
Where?
Who?
What?

生徒 S の解答

'When?' \Rightarrow two yers ago
'Where?' \Rightarrow my room
'Who?' \Rightarrow dog and cat
'What?' \Rightarrow listen to music \leftarrow 2 years ago なので、過去形に!!

Good! $\frac{7}{8}$

生徒 C の解答

'When?' \Rightarrow two \leftarrow 日付? 年々 2 dadys ago かな?
'Where?' \Rightarrow Tsutaya
'Who?' \Rightarrow Doraemon
'What?' \Rightarrow catch ball \leftarrow キャッチボールをする 'play catch'

$\frac{5}{8}$

考察・まとめ

(1) 生徒のアンケート結果から

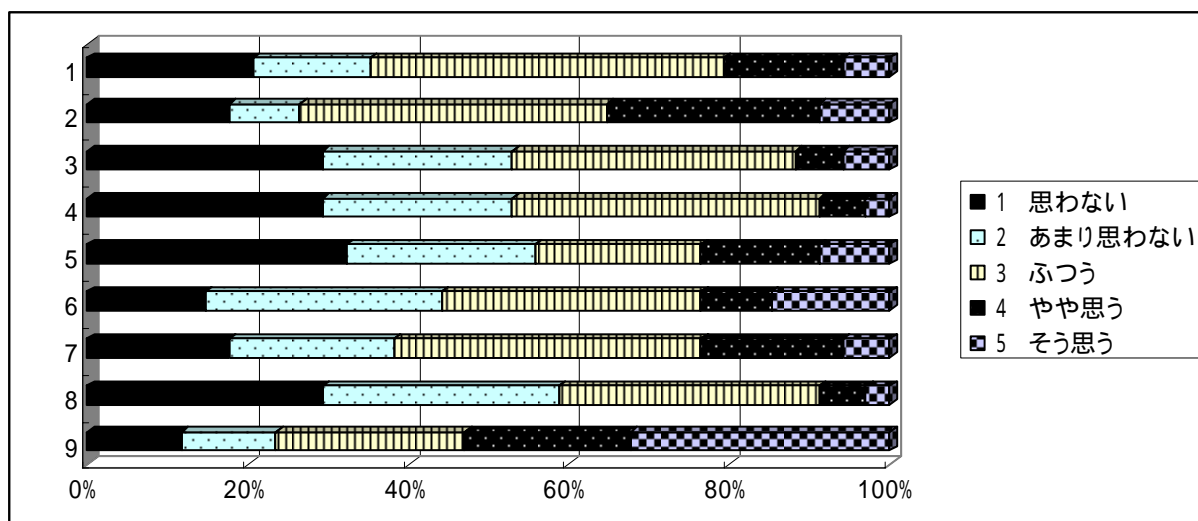
1学期及びドラマ作成終了後に英語に対する意識を把握するために、同じ質問項目でアンケートを行った。また、ドラマ作成に関しては、活動後に記述式で感想を書かせた。以下がその結果である。

英語に対する意識調査

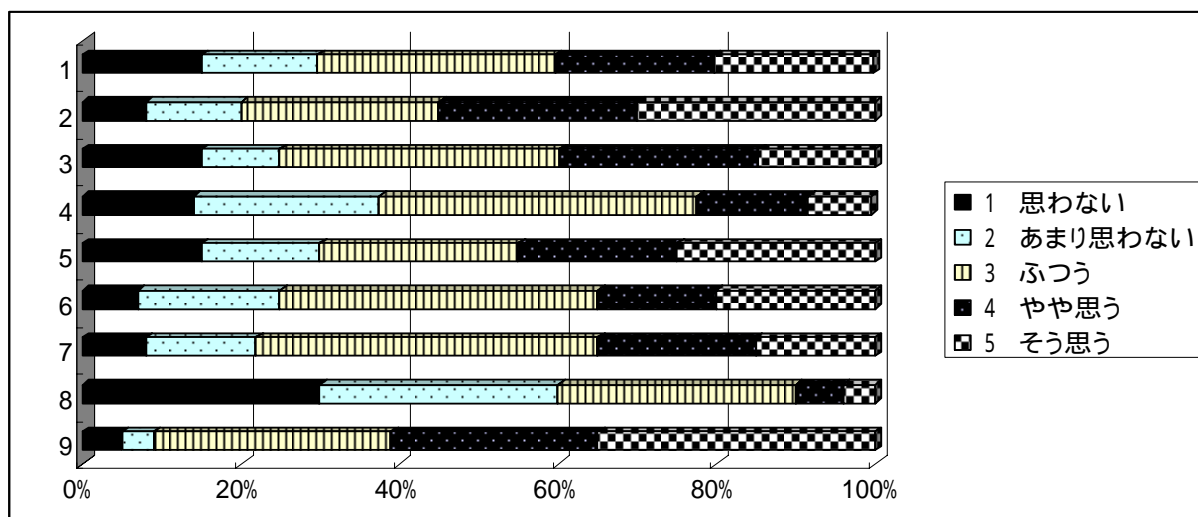
(質問項目)

1. 英語は好きですか？
2. 英語の授業は楽しいですか？
3. 英語で会話することは好きですか？
4. 英語で書くことは好きですか？
5. 教科書以外の内容も学んでみたいですか？
6. 英語は必要ですか？
7. 英語を聞くことは好きですか？
8. 英語を読むことは好きですか？
9. 英語ができるようになりたいですか？

(1学期に行ったアンケート結果)



(ドラマ作成後に行ったアンケート)



ドラマ作成に関する感想

- ・ 思ったより、みんな英語がしゃべれていてすごかった。
- ・ 単語等を調べるのが大変だった。
- ・ 最初は恥ずかしかったけど、無事に上映まで辿り着けてよかった。たまにはこういう授業もいいなと思った。楽しくできて何よりだった。
- ・ またドラマをやってみたい。
- ・ ほんの少しだけ英語ができるようになった。
- ・ 他の班も色々な単語を駆使して頑張っていたのすごかったです。
- ・ 他の人に任せてびっくりだったので微妙です。

1学期の初めの段階では「英語ができるようになりたい」という気持ちが強いものの、英語の4技能については苦手意識が非常に高かった。特に「会話すること」や「書くこと」に対する苦手意識が目立った。さらに教科書以外の教材を使うことに消極的であった。そこで「英語の授業が楽しい」と答える生徒の数を増やしていけば、必ず他の項目においても意識の向上が見られるのではないかと考え、正確さよりもまずは楽しさを重要視した授業展開をすることにした。型通りの発話のみを要求するのではなく、日本語混じりでも構わないから積極的な発話をさせ、言いたかったことが何とか伝えられたときの喜びを味わってもらおうとタスク活動やドラマ活動を導入した。

ドラマ作成後の2学期末に行ったアンケートでは、「2. 英語の授業が楽しいですか？」の問いに対して、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒の割合が上昇した。「聞くこと」「話すこと」を重視して授業を進めてきたので、「3. 英語で会話をするのが好きですか？」への回答から、生徒の苦手意識は多少解消されたことが分かる。タスク活動やドラマ作成などで自由な発話を促してきたことは、生徒の意識を変えていくうえで役に立ったと考えられる。定期テスト等の「英語を書く」ことについても、好きであると答えた生徒の割合は低かったが、「話すこと」ができれば「書くこと」ができるようになると考えはじめ、苦手だと答えた生徒の割合も下がった。

ただ、「読むこと」に対する意識はほぼ変化がなかった。これは、ほとんど「読む」ことを含んだ活動を、OCIの授業において導入していないためと思われる。「会話すること」「英語で書くこと」などの主に発信することの苦手意識が下がったので、次年度の英語の「英語を読む」活動につなげていきたい。また、ほとんどの項目に対して2割程度の生徒が苦手意識を感じており、この生徒達に対するフォローアップや活躍の場を与えていく工夫が今後必要である。

ドラマ作成の点では、クラスメイトの作ったドラマを見て、「自分のクラスメイトは意外とすごいと感じた」という意見が多かった。友人の話す英語を聞いて、理解し、そして感動した結果だと思う。そこで、今後は、生徒同士がより発信したりや受信したりするタスク活動を増やしてみようと考えている。

(2) 定期テストの結果から

入学当初よりも口頭による自己発信が増えてきたのに伴い、テスト等で主に書くことによる自己表現もできるようになってきた。アンケートの「英語で書くことは好きですか？」という質問項目で「得意」「やや得意」と答えた生徒の割合が上がっていることから読み取れる。定期テストの問題では1学期当初に比べ、何も書けない、何も書こうとしないという生徒は減ってきた。また、自分の意思を何とか相手に伝えられる程度の英文は書けるようになってきた。ただ、授業時の活動では発話の文法上の間違いや、書く活動中の単語のミススペリングについての助言はするものの、評価の際には重視していないので、まだ正確な英文で自己表現をしていくことはできない。これからは、OCIでの活動を通して、生徒の意欲を失わずに、発信する英文の正確さについても指導の工夫が必要である。

(3) 今後の課題

タスク活動について

生徒の実態に応じたタスクの設定

各レッスンにタスク活動を課したが、どの程度の難易度なら生徒が活発に活動できるかの見極めが困難な場合が多かった。欲張って多様なタスクを複合させた形のは、ほとんど生徒を混乱させる結果となった。特に道案内のレッスンでは、ペアになり自宅までの道順を口頭で説明し、もう一方の生徒がそれを聞いて地図におこすという複雑なタスクを設定した。しかし、聞き手に「説明を聞き取る」とことと「地図に描きおこす」という2つのタスクを課してしまったので、生徒はどうすればいいのか戸惑ってしまった。そこで、次の授業では来年の修学旅行で訪れる沖縄の国際通りの地図を見ながら、友人を目的地まで誘導するというタスクに変えた。シンプルで生徒の興味を引くタスクを設定することが課題の1つである。そして、今後は限られた発話を誘導するようなタスクではなく、より多様な発話が可能なものを取り入れていきたい。

グループでの競い合い

また、1年間を通じて各生徒が最低5回は級友の前でタスクに挑戦できるような活動を設定した。しかし、タスク毎にグループから1人ずつ挑戦し、グループ毎に競い合うという形式をとれば、もっとグループ内でお互いにフォローし合える活動になったと思う。

ドラマ作成について

最初のうちは日本語で

日本語でスクリプトを作成してから英語にしていって作業だと、日本語に縛られてしまい自由な表現ができなくなるのではないかと懸念し、活動当初はなるべく日本語に頼らないようにさせていた。ところが、知っているフレーズを組み合わせただけで、ドラマとして内容が薄いものや、全く作業が進まないグループがあった。そこで、3時限目の作業からはまず日本語で言いたいことを書かせ、それを英語にしていってという作業に変更した。その後は比較的スムーズに進行した。最初から英語で考えさせる作業は、生徒の自由な発想を妨げてしまっていたのだと反省した。また、日本語から英語にしていって作業の過程で、最初は生徒の自由な発想を尊重しようと自由にセリフを作らせていたので、シンプルすぎるものや複雑すぎるもの、書いた生徒本人すら理解が困難なものが大半だった。

既習の言語材料

そこで、既習の表現の中から3つを教師側で選び、必ずその表現を入れてスクリプトを作成するように指示した。ある程度、使用する表現に条件を与えることで、スムーズに活動が進んだ。

書き直しと気づき

数回の校正を重ねていくうちに、書いた生徒自身にとって徐々に分かりやすいスクリプトになっていった。校正の過程では、単に英文を訂正していくよりも、ヒントや提案を与えていった方が生徒の「やる気」を引き出すことができることに気付いた。教師がすべて訂正するのではなく、生徒に訂正させる糸口をアドバイスすることの重要性を実感した。文の正確さを向上させるために、今後、生徒自らの「気づき」を大切に、ヒントやコメントの書き方について研究していきたい。

事例 2 Writing (第3学年)

コミュニケーション・ライティングの実践

「学校祭の出し物を他クラスの生徒に紹介しよう。」

“Write about your school festival and whatever is concerned with it.”

1 表現活動(ライティング)指導目標

学校祭でのクラスの出し物を紹介する文を書き、身近な事柄について書くことを通じて表現力を育成する。また、他の生徒の紹介文を読み、英語表現に関する関心・意欲を高める。

2 評価規準

- ・ 自分の伝えたいことをできる限り多く英文で書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 自分の伝えたいことや考えを、間違いを恐れずに英語で書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 他の生徒が書いた紹介文を正しく読み取ることができる。(理解の能力)

3 指導過程

まず、6月中旬に、2クラス間で互いにそれぞれのクラスの学校祭の出し物について紹介する英文を書かせた。これは、トピックを与えどの程度の長さの英文を表現できるか調べるために行った。

自分の考えを日本語で簡単にまとめさせて、次に英語で書かせた。その際、英語でうまく書けない生徒には教師側から支援をし、辞書を利用させた。「全員が50語以上で書けること」を目標にした。

生徒の書いた文章を全てタイプし、もう一方のクラスに配布した。他クラスの出し物に関する紹介文を読み、感想を書いて元のクラスに戻し掲示・発表した。

4. 評価方法

この活動では、観察により「関心・意欲・態度」を重点的に評価した。そのため添削は敢えて行わなかった。仮に、生徒の紹介文を「表現の能力」で評価すれば以下のとおりである。

【3 - X 生徒の紹介文例】

「十分満足できる」例

- ・ Hakufusai is school festival of our high school. Our class made “Sugoroku.” It was made four sections. For example, I made “Ennichi section” with my friends. A lot of people came to our class. I think that they enjoyed it.
- ・ We open a coffee shop called “WARYOAN.” It means Japanese atmosphere and cool heritage. If you come to the shop, you can eat kakigori. We serve various syrups, for example, strawberry, melon, powdered green tea and so on.

「おおむね満足できる」例

- ・ Our class open a Japanese style café in Hakufu festival. Specialty of café is many kinds of shaved ices with syrup on the top. We lay a lot of tatami in the room. We use goodwill on entrance. I play a waiter in there.

「努力を要する」例

- ・ We manage a tearoom. The main thing is at great no expense.

【3 - Y 生徒の紹介文例】

「十分満足できる」例

- Long-awaited “Hakufu festival” open. In my class, we run the coffee shop and kakigori. Our kakigori is a shaved ice with syrup on the top and with some topping. It will surely be delicious. In many brass band, we give concerts on the open air and in the hall. You will meet some performance that you can't meet in other concert. Lastly I think that I, other students, teachers, visitors will unify.

「おおむね満足できる」例

- Our class made a sugoroku which called Sugorokumi. We decided to make four group to make four stage. The first stage was bridge stage, the second was western, the third was Japanese, the last was festival. I made third stage. We decided to use the bamboo, but it was difficult for us to stand the bamboo.

「努力を要する」例

- We tired for school festival but I was filled in good because my class person made guest joy by sugoroku. Sugoroku is board game. Our game is big game. I think everybody filled good days.



英語への吹き替えをしよう

1 指導目標

映画「千と千尋の神隠し」のセリフを英語に吹き替えることで、英語に対する興味・関心を高める。グループごとに発表用のワークシートを作成させ、映画の鑑賞を通じて表現力を養う。

2 評価規準

- 吹き替えの言語活動を、間違いを恐れず積極的に行っている。(関心・意欲・態度)
- 主人公になったつもりでセリフを英語に直すことができる。(表現の能力)
- 映画のあらましと、冒頭部分の主人公と両親の会話を英語で理解することができる。(理解の能力)

3 指導過程

- (1) 映画の要約を英語で簡単に説明する。
- (2) 吹き替えに挑戦する冒頭部分を日本語音声で鑑賞し、場面の状況を理解させる。
- (3) 4～5人のグループに分け、話し合いをさせながら英語への吹き替えを作成させる。

- (4) グループから 3 名ずつ代表者を選び、発表させる。
- (5) 補助プリントを用いて、DVD に収められている英語字幕を使ってクラス全体で確認をする。

< この活動の準備について >

* DVD のキャプションについては、最近の PC に同梱されている DVD プレーヤーでは、画面キャプチャーができない仕様のものが多いので、FRAPS というソフトを使った。
レジストしなくても画面のキャプチャーだけなら簡単にできる。また、英語字幕を ON にしてキャプチャーすれば、簡単に模範解答プリントをつくることができる。ただし、著作権の問題があるので扱いは慎重にすべきである。

4 評価方法

発表を元にグループ単位で相互評価する。(グループ 1 ～ 5 がグループ 6 ～ 10 の評価を、グループ 6 ～ 10 がグループ 1 ～ 5 の評価をする。)

評価のポイント (グループごとに配布)

a. 皆によく聞こえるように発表している。	[4 3 2 1]
b. 正しい英語で表現している。	[4 3 2 1]
c. 登場人物の雰囲気をよく表している。	[4 3 2 1]

英訳のワークシート (グループごとに配布)

<p style="text-align: center;"><u>映画の吹き替えに挑戦しよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で分担して英語にしてみよう。 ・できあがったら、父、母、千尋の役の 3 人の代表を決めよう。 ・代表には、みんなの前で演じてもらいます。 <p style="text-align: center;">それではがんばっていきましょう! (1 班～5 班)</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
--

リーディングの活動と結びつけたライティング活動

1 指導目標

リーディングの授業で読んだ文章の内容に対して自分の意見を書くことで、表現力を養う。
また、グループ内で互いの意見を交わすことによって相互理解を図る。

2 評価規準

- ・間違いを恐れず、自分の意見を積極的に書こうとしている。(関心・意欲・態度)

- ・ 自分の考えや意見を分かりやすく書くことができる。(表現の能力)
- ・ 与えられた英文を読み、全体の主題を理解することができる。(理解の能力)

3 指導過程

- (1) リーディングの授業で扱った文章を使って、関係する質問に答える形で自分の意見を書く。
- (2) 4～5人のグループに分け、お互いの意見を発表する。
- (3) グループ内で一番よいという評価を受けた生徒の意見を選び、他の生徒に発表する。

自由英作文トレーニングワークシートは資料を参照。

考察

1 主題設定の理由

4月の下旬にライティングの授業に関するアンケートを行ったところ、次のような意見がみられた。
(対象生徒3年 組42名)

授業アンケート

自分自身に関すること	(得意) (ふつう) (苦手)		
a. 英語は・・・	9	17	26
b. 英文を読むことは・・・	5	20	17
c. 英語で書くことは・・・	1	6	35
d. 英語をはなすことは・・・	0	4	38
e. 英語を聞き取ることは・・・	13	19	10
2. 授業に対して意見・要望があれば記入してください。 ・ライティングの授業は、文法などの演習が多くてあまり楽しくない。 ・自分で考えて英語で「書く」機会がこれまでほとんどなかった。 ・受験に役立つような内容をどんどん入れてほしい。 ・1,2年の頃、ほとんど授業をまじめに受けていなかったの、基礎からやり直したい。 ・文法がかなり不安なので丁寧にやってほしい。 ・総合英語を使う授業は結構よく分かるのでこんな感じで。 ・文法の知識をつけて、速く英文が読めるようになりたい。 ・受験にむけた授業。 ・単語力がつくような授業。 ・文法をならった後、すぐにそれを使った作文練習があるのがとてもいい。 ・総合英語を3年になって初めて使ったけれど、教科書の分からないところが総合英語にあるのももっと使ってほしい。			

少数であったが、生徒の意見の中に、英語で自分のことについて表現したいという意見がみられた。また、それと同時に、ほとんどの生徒が、自分の考えを英語で書くことに自信をもっていないことが分かった。そこで、まずこの時期の生徒にどのような活動を通してどのような力をつけることを目標にすればよいのか考察することにした。

2 コミュニケーションとしてのライティングの指導について

書くという作業の多くは、人に何かを伝えるために行われる。しかしながら、現在もなお、多くの教師が和英訳型の作文指導がライティングの授業の中心になっていることは否定できない。人に何かを伝える = コミュニケーションとしてのライティング能力を養成するためには、どのような目標を立て、どのような指導を展開すればよいのか。吉田研作は、コミュニケーションとしてのライティングを大まかに次のように分けている。

- | |
|---|
| level 1: 他人を視野においたライティングの最も簡単なものは、ちょっとした「伝言」を書く時のメモやメッセージ |
| level 2: 家族や友人など、親しい人を書く手紙つまり書き方や形式にあまりこだわる必要のないライティング（インフォーマル） |
| level 3: 仕事関係のように、より明確に自分が言いたいことや求めたいことを文章化し、それを相手にできるだけ正確に伝えるための書き方や形式も考慮に入れた手紙（フォーマル） |
| level 4: エッセイや小説、詩などのレトリックや想像性（創造性）が必要となるライティング |

そのなかで、「文法の必要度は、ライティングの性質により、どれだけコミュニケーションに必要なか、という基準によって決まってくるのであり、基本的には、目的とするコミュニケーションに必要なだけの文法が使えればそれでよい、ということになる」（吉田 1998）と、文法とライティングの関係を明確に表現している。英語のテスト勉強のために「書く」場合は、まさに文法、表現、語彙などを覚えることが目的なので、書くことによって文法などの言語形式の修得に焦点が置かれる。しかし、それ以外のコミュニケーションを目的としたライティングでは、必ずしも文法などの言語形式はそれほど重視されない場合もあると吉田は述べている。今回は上記の level 2 程度の文法の正確さを意識して目標を立てた。

また、実践例について、伊東（1999）は、ライティングの指導形態を以下のようにまとめている。

書写	暗写	文型演習	和文英訳	口頭英作文	自己表現	文結合演習
パラグラフ・ライティング			日記文・手紙文	エッセイ・ライティング		

コミュニケーションとしてのライティングの観点から、～の活動に注目して指導した。また、コミュニケーションとしてのライティングを指導していく上で、コミュニケーション能力の伸長を図る活動を計画しなければならないわけだが、Arena (1998)は、ライティングにおける communicative competence について以下のように意見を述べている。

Sociolinguistic Competence: “Good writers know how to vary their vocabulary according to such factors as the audience, purpose, the topic, or the point of view.”

Strategic Competence: “In writing to learn, strategic competence is employed when communication breaks down in the writer herself or himself.”

Discourse Competence: “In writing to learn, this type of competence enables the effective writers to organize their writing cohesively and coherently.”

大学受験を目指す 3 年生が、コミュニケーションをとるのに必要な文法を用いて書く学習活動の妥当な目標として、以下のような目標を設定した。

目標: 「2 学期末までに全ての対象生徒が与えられた題に対して、少なくとも 80 語以上の英語で自分の考えを表すことができる。」
--

3 各事例についての考察

コミュニケーション・ライティングの実践

6月中旬、学校祭の準備時期に、生徒の（和文英訳ではない）作文能力を調べることを主な目的として行った。学校祭のクラスの出し物を、2クラスの間で紹介し合うという活動である。到達目標として、どの程度の語数を設定できるか、この活動を通して調べた。

生徒が作文に要した語数は次のとおりである。

10-20 words	0名	
21-30	2名	
31-40	5名	
41-50	10名	
51-	23名	(全40名)

4月のアンケートの結果では、英語を書くのが苦手であると答えた生徒は、35名であったが、上記の統計数からも見て分かるように半数以上の生徒が、文法の間違いこそあれ、50語以上の文を書くことができた。4月の時点で英語を書くという活動について苦手意識をもつ生徒が多かった割には、多くの生徒がよく書いている。学校祭への盛り上がりのなかで、「伝えたい」という気持ちが後押ししたと考えられる。この活動に対してのアンケートでも、「みんながたくさん書いているからがんばった。」「結構書けた。」「楽しかった。」といった声が多く寄せられた。

実際、「ある題について書きなさい。」というだけでは、生徒はなかなか文を続けて書けないものである。‘Do you like English? And why?’と質問しても長々と文を書くことはできない。今回、他クラスへの紹介文という形をとっているので、生徒たちが相手に対して分かりやすく書こうとしている様子が伺える。コミュニケーションとしてのライティングは、生徒のライティングへの意欲を高める活動であるといえる。

英語への吹き替え製作をしよう

昨年の研究授業で、映画「タイタニック」の名場面を和訳させて主人公ジャックとヒロインのローズとの会話を生徒に日本語で再現させた。男子校なので、男同士でラブストーリーの発表はできるのかどうか不安もあった。しかし、そんな心配をよそに、生徒たちは非常に喜々として活動に取り組んだ。映画の中の生きた英語を使って、コミュニケーションとしてライティング活動に応用したものが指導例である。

「千と千尋の神隠し」の冒頭部分を英語に吹き替えするという実践を行ったが、日本語自体が口語表現なので、生徒も大変苦労して英語に直していた。また、昨年実践した「タイタニック」とは異なり、日本語から英語への変換作業は、生徒にとって教師が予想した以上の壁であった。文法の正確さをそれほど意識する必要はないことや、また、英語にできない部分を黙ってやり過ごすのではなく、内容が伝わるように工夫することを指示した。「水切りをする」や「石のほころ」といった英語で表現するのが難しい表現は、どう言いかえをすれば伝えられるかをグループ内で相談させた。以下に生徒の英語への吹き替えの一部を紹介する。

（生徒の英訳例）

「前のほうがいいもん。」

Group1 ‘I think the older is better.’

Group2 ‘Before was better.’

Group3 ‘Previous school is better.’

Group4 ‘I like the old better.

Group5 ‘Old was better.’

「あそこじゃない？ ほら。」

Group6 ‘Isn’t it our house, is it?’

Group7 ‘Isn’t that? Look.’

Group8 ‘Is there our house?’

Group9 ‘Isn’t it there?’

Group10 ‘Look there. Isn’t it our home?’

正しい英語からかけ離れていると感じるような表現もあるが、それでも生徒たちの努力のあとがみられた。とにかく英語で「伝えよう」とすることを第一に考えるように指示した。この吹き替え作成の時点では、生徒はおおむねよく活動に取り組んでいた。

普通教室にはビデオプロジェクターが整備されており、映画の場面を前にして生徒が発表をしたが、大いに盛り上がった。最後に DVD に英語字幕を表示状態にしてある画面をキャプチャーし、印刷したワークシートを配布したところ、「こういう風に英語でいうんだ。」といった声があちらこちらから聞こえ、自分のグループが発表した英語と、お互いに比べ合っていた。授業後のアンケート結果は、以下のとおりである。

項 目			
a. 吹き替え製作に積極的に参加したか。	17	17	4
b. 発表に積極的に参加したか。	14	17	7
c. 他グループの発表を真剣に聞いたか。	20	13	5
d. 吹き替え作業は楽しかったか。	23	13	2
e. 発表は楽しかったか。	18	13	7

以上のことから、楽しく英語で表現することで、英語で書くことに対する恐怖感・劣等感が減り、また、英語で表現することへの期待が膨らんだと感じた。

リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動

今回、英作文において「相手に自分の考えを伝え」たくなるようなテーマを設定し、受験を控えた 3 年生だからこそできる活動として、**リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動**を実践した。突然テーマが与えられて書く英作文と違い、受験対策用の 400 ~ 600 語程度の英文（啓隆社発行の問題集から精選）を読んで、それに関連する質問に答える形式で、自由に意見を書く教材の工夫をした。実践例 にあるように、毎回グループ内で「（文を）読む （意見を）書く （自分の考えを）話す （仲間の発表を）聞く」の一連の作業がすべて盛り込まれており、生徒は意欲的に活動した。

文法上の誤りについては、教師から指摘しなかった。グループ内での発表時に、内容がよく分からないときは、生徒同士で質問をし合うことにしたので、互いに指摘されたポイントを見て本人が誤りに気付き自ら修正することができた。

次の例は、第 1 回のトレーニングを参考に、リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動での素材文と生徒の作品例である。

第 1 回英文

In one way or another most people talk about the supernatural. In its most common form this is simply a matter of superstition : what actions do we think are lucky or unlucky ? In England for instance it is lucky to see a black cat cross your path ; it is unlucky to walk under a ladder or break a mirror ; it is lucky to find a four-leaved clover ; it is unlucky to spill salt.

A more serious form of the supernatural is the poltergeist an invisible being that is supposed to throw objects and furniture around. Strangely enough most poltergeists have manifested themselves when a young child is living in the house ; some people say that this shows that the child is faking the phenomena, others that the child acts as a kind of channel for psychic energy.

Even scientists have paid some attention to the supernatural. Several have investigated different aspects of E.S.P. (Extra-Sensory Perception). Some have studied how people can transmit their thoughts by telepathy and can tell, for example, what card another person is looking at even if they are hundreds of miles away. Many experiments seem to show that there is indeed something at work ; however, critics have pointed out that the results could have been achieved by cheating, for instance in some experiments by children communicating with high-pitched whistles that adults cannot hear.

Coming within the same field of speculation is the flying saucer or U.F.O. In the nineteen-fifties particularly, many people claimed to have seen mysterious flying objects in the sky, sometimes large and cigar-shaped, sometimes small and round and shining with a bright light. They were seen, not just by untrained people on the ground, but by trained observers and pilots. One pilot is even supposed to have chased one high in the air ; what he found nobody knows because his plane exploded. At least one man claims to have spoken to the occupants of a saucer. They turned out to be from the planet Venus and to be rather concerned about human beings testing nuclear bombs.

英語 や の教科書にありがちな本文についての Q and A ではなく、以下のような質問を工夫した。

1. What kind of superstition do you know? Show a familiar one to you.

生徒の例

- I know that we shouldn't kick a stone by left leg. Otherwise a very bad thing will happen to us.
- Don't cut nail at night. Because it was called YOZUME in Japanese and it means that you are to die soon.
So I seldom cut my nail at night.
- When we see a white snake, we mustn't kill it. A white snake brings us luck.
- This is a story that I was told when I was a child. I was told it by my friend when we played together. One of my friends told a very impressive story. This is "AWASEKAGAMI." You may wonder what it is. It is a pair of mirrors facing each other. If you see your face hundredth(?), you will die. The hundredth your face will be your dead face.

2. Have you ever experienced supernatural thing? If your answer is "Yes.", please tell us the one. If your answer "No", please show us a supernatural thing which you know.

生徒の例

- When I was a child, I was sure that I saw a kind of UFO. It was blue and shining. And then I suddenly started moving very fast and I lost sight of it soon.
- One day my friend dreamed of his friend. He hasn't seen his friend for a long time. Somehow he dreamed of his friend at the next night again. When he woke up in the morning, his phone rang. It was the news that his friend had died the day before.
- Unfortunately I haven't experienced supernatural thing. There is a person who saw a ghost. But I have never seen it. I want to see it someday though I feel scared.

次回の英作文トレーニングの題材になる英文を選ぶ手間はかかったものの、この活動を毎回生徒が楽しみにするようになってきた頃には、教師も生徒も日常の活動のように感じられるようになった。

しかしながら、順を追って段階的に難易度を上げていくにつれ、発問の準備不足もあり、第6回では生徒全体の英文の量が少なくなった。英文の種類と発問の仕方で、書く量はかなり左右された。

次に、第2回から第7回で用意した英文の題目と生徒に作文を促すような発問の例を挙げる。生徒のワークシートについては26ページの添付資料を参照のこと。

第2回「人間の持つ超感覚 (the sixth sense)」

- Q1. What superhuman sense introduced in this story impressed you most? And why?
Q2. What sense do you want now? And why?

第3回「90年代のアメリカにおける上方志向」

- Q1. Are you for or against "upwardly mobile"? And why?
Q2. A few days ago, Jumbo Ozaki, a super professional golf player, went out of business.

He once earned as much as hundreds of millions of yen a year and built a mansion with a very large garden and invited famous talent. But now only debt is left to him and his house is no longer his own one. If you got unbelievably much money, what would you do? How do you spend it?

第4回「黒柳徹子の見た戦争の惨劇」

- Q1. What do you think of the war after reading the story of a girl who became a victim of the war.
Q2. What should we do to prevent children in Africa from dying young?

第5回「人間と言語」

- Q1. What if we human should lose our languages?
Q2. If you can communicate with animals by means of language, with what animals and about what things do you want to talk?

第6回「散文と詩」

Q1. Do you like reading poems? And tell us the reason why you think so.

Q2. Try to write a poem with about 50 words.

第7回「環境破壊の中心にいる日本」

Q1. When you learned that Japan is the biggest consumer of ivory, what do you think about it?

Q2. *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles.

What should we do to prevent the earth from destruction? Show your resolution in terms of the consumption of timber in Japan.

第4回を例に挙げると、1名を除いて全員が80語以上で書くことができていることから、目標は達成できた。また、このトレーニングは「英語で書こうとする」意欲・態度を育てるのに適していた。

以下は、第1回～第7回の英作文トレーニング後の生徒の感想である。

第1回

- ・初めてこの作文に取りかかって大変でしたが、自由にかけられるのでけっこう面白かったです。他のテーマでも書いてみたいと思いました。
- ・英作文は苦手だけどテーマが分かりやすかったので、結構書けたと思う。これみたいに分かりやすいテーマならまた書いてみたいと思う。
- ・自分の知らなかった迷信や奇妙な現象を友達から聞いて楽しかった。

第2回

- ・英作文への苦手意識は減りつつあると思う。
- ・第1回よりは英文もよく読めたので、書きたいことを早く書き終えることができた。
- ・英作文は苦手なでもっと練習が必要だと感じた。
- ・今日はあまりよく書けなかったが、次は文がつながるように書いて長い文章を書けるようになりたいと思いました。

第3回

- ・前より長く書けた気がする。
- ・ちゃんとした英文になっていませんが、それなりにおもしろかったです。
- ・英作文練習は自分の単語力、文章構成力を高めるのによい目標を持てるので、これからもしっかり続けていきたい。

第4回

- ・まだまだ思っているように英語で表現できないと再認識させられた。
- ・いつも以上に今回は書きたいことを英語で表現できたので、少し自信がついた。
- ・このトレーニングでより英語がおもしろく感じられた。
- ・自分の思ったことが正確に表現できたか不安である。
- ・言いたいことはたくさんあるのに、英語でうまく表すことができないので、少しもどかしさを感じた。
- ・文中の登場人物の気持ちを理解しても、そのことを表すことの難しさが分かった。

第5回

- ・だんだん慣れてきたけれども、何を書いてよいか分からないことが多い。
- ・文法とか正しくないと分かっているけど、こういう活動はよい経験だ。
- ・5回やってみて、最初は結構でこずったけど、だんだんコツのようなものがつかめてきたと思う。
- ・自己主張ができるから自己表現のトレーニングにはいい。書いてみると、文の構造が勉強できる。

第6回

- ・長文を読むスピードも要求されるので、ちょっとつらかった。
- ・自分の考えを英作文で表すのは、いろいろな発想をさせられるし、いろいろな物事について考えさせられるので、人間としてちょっと成長した気持ちになる。
- ・よく考えてみるともう6回もやっていた。いままで経験のなかった自由英作文の授業も慣れたと思う。

・英語で詩なんか書いたことなかったので、今回勉強になった。

第7回

- ・私は英語が苦手教科で、その中でも英作文は大の苦手だったので、最初は英作文を書くことに対して、かなり抵抗がありましたが、これまでの英作文を通して、少しずつ英作文のおもしろさが分かったような気がします。
- ・今日は特につらい思いもしないで書けた。

7回目のトレーニングの後は、4月と同様のアンケートを行った。

授業アンケート (4月、11月)

自分自身に関すること		(得意)	(ふつう)	(苦手)
a. 英語は・・・	4月	9	17	26
	11月	11	18	11
b. 英文を読むことは・・・	4月	5	20	17
	11月	8	19	13
c. 英語で書くことは・・・	4月	1	6	35
	11月	4	23	13
d. 英語を話すことは・・・	4月	0	4	38
	11月	1	15	24
e. 英語を聞き取ることは・・・	4月	13	19	10
	11月	13	23	4

英作文トレーニング直後のアンケートということをしり引いても「英語で書くこと」について「苦手」と答えた生徒が大幅に減ったことは、これらの活動によって、生徒が英語で書くことに対して自信をつけてきた証であると考えることができる。さらに、関連の有無は不明だが、「英語を話すこと」についても「苦手」と答えた生徒の数が減っている。書くことへの自信が話すことにも何らかの影響を与えているのかもしれない。

4 感想とこれからの課題

初めは、3年生しか授業担当がないために、受験のことを強く意識している生徒たちにこの活動が快く受け入れられるのだろうかと少々不安であったのだが、取り越し苦労であった。生徒たちは、私の予想をはるかに上回る意欲を見せて「書くこと」に取り組んだ。

今回の実践は、生徒の意識変化を期待しながら、その結果として語数が増えればよいという程度で行ったが、かえってそれが生徒にプレッシャーにならずに済んだのかも知れない。実践を通して、英語で書くことへの「関心・意欲・態度」が形成されつつある手応えを感じた。機会があれば、特定の生徒の追跡調査を試みたい。

<参考文献>

- ・ Canale and Swain (1980). Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing. *Applied Linguistics*1:pp1-47
- ・ Louis A. Arena (1998). *Strategies and Skills for Effective ESL writing – or Writing to Learn*
- ・ ASTE 第95回例会(1998). 『試してみました--Written Communication』
- ・ 吉田研作 (1998). 『ASSOCIATION OF SOPHIAN TEACHERS OF ENGLISH 第39号』
- ・ 伊東治巳 (編) (1999). 『コミュニケーションのための4技能の指導』教育出版.

自由作文トレーニング No.1

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

In one way or another most people talk about the supernatural. In its most common form this is simply a matter of superstition : what actions do we think are lucky or unlucky ? In England for instance it is lucky to see a black cat cross your path ; it is unlucky to walk under a ladder or break a mirror ; it is lucky to find a four-leaved clover ; it is unlucky to spill salt.

A more serious form of the supernatural is the poltergeist an invisible being that is supposed to throw objects and furniture around. Strangely enough most poltergeists have manifested themselves when a young child is living in the house; some people say that this shows that the child is faking the phenomena, others that the child acts as a kind of channel for psychic energy.

Even scientists have paid some attention to the supernatural. Several have investigated different aspects of E.S.P. (Extra-Sensory Perception). Some have studied how people can transmit their thoughts by telepathy and can tell, for example, what card another person is looking at even if they are hundreds of miles away. Many experiments seem to show that there is indeed something at work ; however, critics have pointed out that the results could have been achieved by cheating, for instance in some experiments by children communicating with high-pitched whistles that adults cannot hear.

Coming within the same field of speculation is the flying saucer or U.F.O. In the nineteen-fifties particularly, many people claimed to have seen mysterious flying objects in the sky, sometimes large and cigar-shaped, sometimes small and round and shining with a bright light. They were seen, not just by untrained people on the ground, but by trained observers and pilots. One pilot is even supposed to have chased one high in the air ; what he found nobody knows because his plane exploded. At least one man claims to have spoken to the occupants of a saucer. They turned out to be from the planet Venus and to be rather concerned about human beings testing nuclear bombs. (343 words)

1. What kind of superstition do you know? Show a familiar one to you.
2. Have you ever experienced supernatural thing? If your answer is "Yes.", please tell us the one. If your answer "No", please show us a supernatural thing which you know.

自由作文トレーニング No. 2

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

"The physical senses of Aborigines far exceed ours," says a Japanese professor who has done field research in Australia.

When Professor Shimbo once climbed a hill with some Aborigines, one pointed to a distant place and said he saw smoke. Even with binoculars, Shimbo could see nothing.

"I checked later and found out that there was a fire about 100 km away from where we were, about the distance from Tokyo to Atami," Shimbo said. Even using the most powerful binoculars, people can see only up to 30 km, said the professor.

When Shimbo visited an Aboriginal school in the desert, he saw young students jumping around, as if agitated. When he asked a non-Aboriginal teacher what the children were doing, the teacher said, "In two or three days, a storm will come."

After two days of sunny weather, strong winds began to blow and a thunderstorm struck. The teacher later told Shimbo that in his eight years of teaching in the area, he had learned that when young kids become agitated, it is always a harbinger of violent weather. "It has never failed to come true," he added.

Shimbo says one Australian told him whites are often attacked by sharks in coastal waters but Aborigines never are because, "they can sense danger and swim away before sharks can approach them."

A government official told Shimbo how an old Aboriginal woman burst into violent tears while conversing with white people. When asked why, the old woman said her son had just died. "Your son ? Where is he ?" "He's in a settlement across the desert."

Because the desert was 400 km wide, and no means of communication connected the two settlements, the white people dismissed the old woman's story as total nonsense. A few days later, however, a messenger arrived from the settlement on the other side of the desert and informed them of the son's death. The time of his death was exactly when the old woman burst into tears. An anthropologist who has devoted his life to the study of Aborigines said these abilities are something that the Aborigines have acquired over a millennia of living in dangerous conditions. A special state of mind gives them superhuman senses that allow survival. (372 words)

1. What superhuman sense introduced in this story impressed you most? And why?
2. What sense do you want now? And why?

自由作文トレーニング No. 3

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Not too long ago, during the 1980's, everyone in America wanted to be "upwardly mobile." We wanted to be increasingly successful. We wanted to have a better income, even if it meant working many hours of overtime or even two jobs. And we wanted all the material things that showed everyone else how successful we were. We wanted a bigger house, a fancier car, a Gold Visa or Mastercharge, a boat, a vacation condo in Hawaii.

But for many, this kind of success has proved to be a disaster. The dream became a nightmare. It left us financially indebted, spiritually empty, and emotionally exhausted. In the meantime, our blood pressure went up. Our children were neglected. Our marriage failed. And for what ? Is it worth all the worry and headache ? More and more people are answering a loud "No !" to this question.

As a result there is a new formula for success for the generation of the 90's. It is called "downward mobility."

Or, to put it in more simple terms, “living simply.” Living simply does not necessarily mean that you have to move out into the wilderness and grow your own vegetables, sew your own clothes, bake your own bread. You don’t have to go to such extremes. But it does mean “downscaling” your lifestyle to bring it in line with the reality of your income. It means, as we used to say, “living within your means.”

How do you do this ? For one thing, you get rid of that oversized mansion you own with its heavy mortgage payments and buy a more affordable home. For another you trade in your shiny new BMW and Mercedes and get yourself a nice used Ford or Corolla. And it means taking all your credit cards and cutting them into tiny pieces. From now on, you pay cash for everything. And if you don’t have the cash, you don’t buy.

Of course, it isn’t as easy as it sounds. For most of us, “living in the fast lane” a popular expression of the 80’s is a hard habit to break. We can’t help measuring success in material terms. But the job market isn’t as sure as it once was, say the experts. No one knows what will happen next. The only way to be safe is to slow down, get out of the fast lane, and relax and enjoy the ride. (399 words)

[注] be mobile : 動く , 移る Gold Visa or Mastercharge : (有名なクレジットカード名) a vacation condo : リゾートマンション mortgage : 住宅ローン

1. Are you for or against “upwardly mobile”? And why?
2. A few days ago, Jumbo Ozaki, a super professional golf player, went out of business. He once earned as much as hundreds of millions of yen a year and built a mansion with a very large garden and invited famous talent. But now only debt is left to him and his house is no longer his own one. If you got unbelievably much money, what would you do? How do you spend it?

自由作文トレーニング No. 4

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

I shall never forget the words of the headman of a nameless village in Tanzania. “Miss Kuroyanagi,” he said, “there is one thing I hope you will remember when you go back to Japan : Men and women usually die groaning and complaining of pain, but children just die silently, beneath the banana leaves, trusting us adults.”

In 1984, I was appointed goodwill ambassador for UNICEF. In the 13 years since then, I have visited many countries and met lots of children. In the early 1980s, 14 million children under the age of five died each year. They were weakened by starvation and malnutrition as a result of wars and poverty, and because of a lack of immunization, exposed to diseases that need not have killed them.

Had I not been given this work, I might never have known about these children. Nor would I have known what a strong will to live children have, whatever the circumstances, because of their faith in grown-ups. My heart aches when I think of the 180 million children who have died in horrible conditions in the 13 years since I was appointed UNICEF goodwill ambassador.

In India, I met a boy who was dying of tetanus. I spoke to him softly, in Japanese, “The doctor is taking care of you. You’ll be all right !” He looked at me with his beautiful large eyes, and he tried to say something. Tetanus is a terrible disease, in which all muscles stiffen and one cannot speak. I asked the nurse what he had said. She told me he was trying to say, “I pray for your happiness.” I was too moved for words. That dying boy made no complaint of any sort and just said that. Had he been immunized, he need not have died. I shall never forget either the Tanzanian village headman’s words or those of that Indian boy. They will remain forever in my heart.

I can never forgive the man who hid a bomb in a child’s stuffed toy. When the fighting broke out in Bosnia, roofs were blown off houses and people ran this way and that trying to escape, but they managed to protect their children. As soon as things seemed quiet, they returned home. One little girl went straight to her room to see if her favorite stuffed toy was still there.

“Sorry I couldn’t take you with me. I’m so glad you waited !”

That is what she probably said as she ran to her favorite toy and picked it up to embrace it. Just then, the bomb went off, killing the child. While the house had been left empty, one of the enemy had gone in and hidden a bomb inside the stuffed toy so it would go off when the child picked it up.

So war even takes advantage of the psychology of children ! I wonder what that child thought as she died, embracing her stuffed toy. Did she think, “How could you do this to me ? You were my friend !” As for me, when I heard about it, I was filled with the deepest possible hatred for war. (521 words)

[注] malnutrition : 栄養失調 immunization : 免疫予防注射 tetanus : 破傷風

1. What do you think of the war after reading the story of a girl who became a victim of the war.
2. What should we do to prevent children in Africa from dying young?

自由作文トレーニング No. 5

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Among the activities that distinguish human beings from other animals are those associated with language, thinking, and problem solving. Our capacity to use language as both a means of communication and a storehouse of information is related to our ability to think, on the one hand, and to solve problems that lead to changes in our environment and behavior, on the other. Other animals cannot, in general, pass information from generation to generation. Human beings, because they have the use of language, can store information in books and in other forms. As a result, the relationship between language and thought is continually evolving.

Other animals communicate with one another in various ways : dogs bark, lions roar, and some birds display colored plumage during the mating season. But the range of communication that these animals have at their disposal is relatively limited. What gives human language its enormous range and what distinguishes it from other forms of communication is the fact that it is symbolic.

A symbol is anything that stands for something else. Language is symbolic in that words are representations of

objects, ideas, and sensations. As a result of our ability to communicate symbolically, the range of expression that is available to us is virtually unlimited. We can refer to a chair without pointing to any chair in particular ; we can even refer to a unicorn and make ourselves understood even though nobody has ever seen one except in paintings.

(241 words)

[注] unicorn : 一角獣

1. What if we human should lose our languages?
2. If you can communicate with animals by means of language, with what animals and about what things do you want to talk?

自由作文トレーニング No. 6

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Let us look at the special problems in reading and understanding that poetry may set. People sometimes have fixed preconceptions about and an antipathy towards poetry. They regard it as 'effeminate' or 'arty' or 'difficult'. These comments may be true of some poems, but they are not true of poetry as a whole. Sometimes, poems require a greater effort on the part of the reader but equally they can give the reader a satisfaction commensurate with this effort. The more you put into reading a poem, the more you are likely to get out of it.

It is difficult to generalize about poetry, but the basic difference between prose and poetry is the latter's economy. A novel may contain 80,000 words, a short story 5,000 : the writers of these have room to expand and fill in detail. The poet is usually working on a much smaller scale : he is trying to catch a moment or create an effect or pass on a thought, and he may use only 200 words in doing so. It follows then that if he is to make an impression on the reader at all, these words must be chosen with great care so that they have the maximum impact. A writer of a novel or a short story can afford to be expansive, he can afford to some extent to waste words or write about irrelevancies : a poet can't.

The pattern imposed on a poem by its verse-form also acts as a discipline on the poet. A novelist or a short story writer doesn't necessarily have to worry too much about the rhythm of his words or the lengths of his paragraphs : a poet has to concern himself much more with how the words fit into a particular pattern and the need for the words to carry on a particular rhythm.

It follows then that the words in poetry are likely to be more packed with meaning than in prose. The poet has to take into consideration the sound of the words he uses, their rhythm, the associations they call forth in the reader's mind, much more than a prose writer, because the poet has to make a much more powerful effect in a smaller space.

(375 words)

[注] effeminate : lacking in manly qualities
arty : making a pretense or show of being artistic
commensurate (with) : equal in measure or size (to)

1. Do you like reading poems? And tell us the reason why you think so.
2. Try to write a poem with about 50 words.

自由作文トレーニング No. 7

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Many Westerners writing about the Japanese have noted their love of nature. Nature has long been considered essential to an understanding of their art, literature, and religion. This view is now being revised and a new, negative image is spreading fast. As concern grows about the environment, Japan has come to be criticized as one of the world's worst "environmental outlaws": that is, as a nation which disregards the necessity of preserving the natural environment. As one member of the conservation group Greenpeace says, "My impression is that the Japanese will do whatever it takes to secure what they want... whale meat, ivory, or timber."

Whaling has long been a topic of international dispute. The other two are comparatively recent topics, but they have caused equally heated disputes that put pressure on the Japanese, forcing them to reflect on their behavior.

According to a recent article in *Newsweek*, the elephant population in Africa has decreased in the past ten years from 1.3 million to about half that figure. Most of the lost elephants were killed for their ivory, which is exported almost solely to Asia. Even among Asian countries, Japan was the biggest consumer. Embarrassed by critical publicity about its ivory consumption, Japan reduced its import total of 285 tons in 1985 to almost a third that amount in just three years. As a result, Hong Kong replaced Japan in 1988 as the world's largest buyer of African ivory. But that was only on the surface. A separate article points out that if indirect purchases from dealers in other countries are included, Japan is still the biggest consumer of ivory in the world.

As for timber, the same *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles. Cutting down trees helps speed a phenomenon called "global warming," which increases temperatures and causes higher levels of water in the earth's oceans. Another worrying effect is that lakes and rivers near destroyed forests cannot maintain the same level of water. This has actually happened in the case of the River Lijiang, a river on which tourists take boat rides to get the best view of Guilin, one of the most scenic spots in Southern China. The falling water level in this river is said to be a result of great numbers of trees having been cut illegally. The river may run dry within the next few years if no action is taken.

(407 words)

1. When you learned that Japan is the biggest consumer of ivory, what do you think about it?
2. *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles. What should we do to prevent the earth from destruction? Show your resolution in terms of the consumption of timber in Japan.

事例 3 Writing (第3学年)

自分史作成

1 指導目標

自分史や好きな人物の紹介といった身近な題材について、メモをもとに紹介文を時間順に書き、表現する楽しさを味わうとともに、友人の紹介文を読み共に学ぶ楽しさを経験させる。

2 評価規準

- ・間違えることを恐れずに自分のことについて書いている。(関心・意欲・態度)
- ・必要に応じて辞書を活用して、書いている。(関心・意欲・態度)
- ・内容を整理して書くことができる。(表現の能力)

3 指導過程

まず、教師自らが書いた自分史を示し、具体的なゴールイメージを生徒にもたせる。

ワークシートを用いてメモを完成させ、それに基づいて英文を書かせる。

教師側からコメントをつけて返す。

優れた作品を5編程度選び、印刷して配布し、クラスで発表させる。

ワークシート

Fill in the following table in Japanese, then write in English.

自分史 or _____ の略歴	
19____年	_____に生まれる。

3- _____ No. _____ Name _____

(教師が示した例)

1968年	町に生まれる。
1973年	数字に没頭する。
中学時代	剣道を始める。
高校時代	洋楽を聴く。
1988年	大学に入学する。
1995年	足利高校の教員になる。
2001年	高校に異動する。

I was born in the town of _____ in 1968. At the age of 5, I was so interested in numbers that I wrote the numbers 1-100 over and over again. I started kendo as a junior high school student. During the high school days, I was absorbed with English songs. In those days, I listened to rock music. My favorite musicians were Led Zeppelin, Deep Purple, David Bowie, Rod Stewart, King Crimson, the Who, the Beatles, Yes, ELP, Jeff Beck... Long Live Rock! I spent a year preparing to enter the college and in 1988, I entered _____ University. I majored in English Literature. So we studied English plays. G.B. Shaw was the writer I studied. One of his plays was changed into a musical and became famous. It is named "My Fair Lady." In 1995, I became an English teacher at Ashikaga high school. I was in charge of the handball club. In 2001, I came back to the school I graduated from, _____ high school.

(生徒の例1)

自分史	or	芥川 龍之介 の略歴
1892 年		東京に生まれる。
1913 年		東京帝国大学入学
1915 年		『羅生門』を発表、漱石の門下に入る。
1916 年		『鼻』が漱石の賞賛を受ける。大学卒業
		傑作を多数発表する。
1927 年		自宅で服毒自殺。

He was born in Tokyo in 1892. At the age of 21, he entered the Tokyo Imperial University. He published "Rashyomon," and he began to learn from Natsume Souseki in 1915. The next year, his work "Nose" was admired by Souseki very much. After he graduated from the university, he published a lot of masterpieces. In 1927, he killed himself with poison at home.

(生徒の例2)

自分史	or	カート コバーン の略歴
1967 年		ワシントン州に生まれる。
1974 年		両親離婚。ビートルズなどのレコードを聴く。
		社会に不適應を感じる。1984 年 パンクと出会う。
1987 年		ニルヴァーナ結成
1991 年		アルバム『Never Mind』を発表。92 年全米 No.1 に輝く。
1994 年		4 月 自宅で銃で自殺。

Kurt Cobain was born in Washington State in 1967. At the age of 7, his parents divorced and he felt himself not good for this world. In those days he would listen to rock music like the Beatles. In 1984, he came across punk rock music. In 1987, he made a band called "Nirvana." In 1991 their work "Never Mind" made No. 1 hit in the USA. But in 1994, he shot himself to death, feeling so angry that he got mad, I think. His songs describe the bottom of our feelings. The way of expressing his thoughts changed as in the past rock music and their music style is called "alternative rock." I like his attitude toward the world and their music.

4 考察

例1では、「主語の多くが 'He' で始まっていて単調な感じを受ける。しかし、接続詞 'after' を使い時間順に簡潔にまとめている。」とコメントを付けた。例2では、「さまざまな主語を使い、変化に富んでいる。最後に自分の意見を述べているところがよい。」とコメントを付けた。コメントを参考にして生徒に書き直しをさせる時間が必要だった。

最初の活動としては、書きやすい題材なので楽しく表現でき「達成感」を味わわせることができた。また、級友の考えていること、書きぶりが、自分を表現しようとする動機付けになったと考えられる。

「つなぎことば」の活用

1 指導目標

ライティング教科書のパラグラフ・ライティング編を利用して、文と文のつながりや段落の構成を学び、それらを用いて表現する基礎を養う。

2 評価規準

- ・文法、語法に従って正しく書くことができる。(表現の能力)
- ・文と文を正しくつなげて書くことができる。(表現の能力)

・ Transition Words の使い方を知っている。(知識・理解)

3 指導過程

教科書に沿って、教科書の項目「例示・列挙」「比較・対照」「因果関係」を学習させる。
各項目ごとにワークシートを用いて、文と文をつなぐ語句の補充問題から単文作成、そしてパラグラフ・ライティングへと段階的に指導する。
ワークシートを回収し誤答分析を行い、生徒のつまづきを調べ、指導に生かす。
復習として長めの英文作成にチャレンジさせる。
「比較・対照」のパラグラフ・ライティングを書かせる。

ワークシート 1

例示・列挙に使われる表現 (主題に関わる項目について例を挙げて説明する時に使われる。)			
for example / for instance	例えば		
for one thing, for another(thing)	1 つには ... もう 1 つには ...		
such as / like	~のような		
first(ly) / in the first place	第 1 に		
to begin with	まず第 1 に		
second(ly) / next	第 2 に / 次に		
then	それから		
finally / last	最後に		
on top of / in addition to	~に加えて		
also / too / as well	~もまた		
furthermore / moreover	さらに		
what is more	さらに		
1 次の英文に上の表現から適切なものを選び、入れなさい。			
(1) Human activities () the burning of forests and fossil fuels have produced an excess of gasses such as CO ₂ .			
(2) Some campers make foolish mistakes. (), they get out of their cars to take snapshot or even try to feed bears.			
(3) If *genes influence behaviors in flies, why not in humans ()? *gene 遺伝子			
(4) Hair and feathers consist of materials similar to nails. They are poor *conductors of heat and so a very good protection against cold. () this *feature, they keep a *layer of air underneath. So geese, hares, and even bears in Siberia do not need winter coats. *conductor 伝導体 *feature 特徴 *layer 層			
2 次の英文に続くよう推測して下線部に英文を書きなさい。			
What do the present-day Japanese children do at home when they are not studying?			
They tend to spend time by themselves. For instance, _____			

3 年	組	番	氏名

ワークシート 2

比較・対照に使われる表現 2 つ以上のもとの類似点、相違点を挙げながら説明するときに使われる。	
but / yet (文頭で)	しかし
although / though	~であるけれども
whereas	~だが一方
while	~だけれども、だが一方
even if / even though	たとえ ~でも
however	しかしながら
nevertheless / nonetheless	にもかかわらず
compared with [to]	~と比較すると、比べて
by contrast / in contrast	対照的に、それに比べて

on the contrary	それどころか、それに比べて
on the one hand / on the other hand	一方では、他方では
unlike	～と違って
比較級 than	
instead	それどころか
in spite of / despite	～にもかかわらず
in comparison with	～と比較すると
rather	むしろ

1 次の英文に上の表現から適切なものを選び、入れなさい。

- (1) Some animals and plants survived, () others died off.
- (2) () some sailors killed the sea birds for food to survive the hard conditions at sea, the albatross population remained largely *stable. *stable = not likely to move or change
- (3) Economists generally agree on what influences economic growth. (), there are some differences of opinion among these specialist.
- (4) Interpol is an international police organization that promotes cooperation among more than 180 nations to fight against international crime. () the image created in films and TV movies, Interpol agents do not travel from country to country, arresting criminals here and there.

2 次の英文に続くよう推測して下線部を埋めなさい。

In many cultures nicknames are used to express feelings toward a person. They are commonest among children but _____

3 年 組 番 氏名

ワークシート 3

因果関係に使われる表現

主題文の内容について、その原因や理由を挙げて説明する時に使われる。

接続詞

because S V / since S V ~なので、~だから

前置詞

because of 名詞 / due to 名詞 / owing to 名詞 ~の理由で、~の原因で

as a result of 名詞 ~の結果として

動詞

cause	が	を引き起こす
have an effect on	は	に効果がある
be responsible for	は	に責任がある
result in	が	という結果になる
result from	が	から結果として生じる

副詞

consequently	その結果、したがって
therefore	それゆえに、したがって
thus	このように、したがって

1 次の英文に上の表現から適切なものを選び、入れなさい。

- (1) The wife asked her husband if he wanted to stop for a drink, () they had been driving in the car for a while.
- (2) Dogs became mad () some mysterious powers at that time.
- (3) Fainting () lack of oxygen(O₂) in the brain.
- (4) The biwa is a musical instrument that was in use in Japan as early as the eighth century. Originally, it came from Persia, travelling east through Asia to Japan. As time went by, different types of biwa were developed. This () the various sizes and styles that can be seen today.

2 次の英文に続くよう推測して下線部を埋めなさい。

Some American teenagers tend to view cell phones as devices that give them more freedom because _____

3 年 組 番 氏名

誤答分析(ワークシート1, 2, 3)

例示・列挙

	(1)	(2)	(3)	(4)	
1					the present-day children in foreign country get the job to get money when they are not working.
2	for example			what is more	they watch TV and play the video game.
3			b		
4					They play TV Game and read some books
5					
6					they play TV game alone.
7					They watch TV or read a manga.
8					they watch TV.
9					they are playing TV game. And watachig TV.
10	b		b	b	
11					they play the TV game.
12	for instance	then		more	
13		b	b	b	they play games and watch TV.
14					wataching TV, playing the sports and enjoying the Internet.
15	in the first place	To begin with	also	Then	they play video game. For long time.
16				b	
17					they play the game alone.
18				what is more	they watch TV, play TV game. And read comics in their room.
19	then	moreover			
20				moreover	they play TV game.
21	in addition to			b	They are watching TV.
22	for example	what is more		b	they read a book, play TV games, use a computer.
23					they spend to play TV game, and sleep.
24			last	moreover	
25	in addition to	b			they watch TV.
26					
27			b		they play a video game or use a computer.
28			also		they play TV game and talk with their family.
29				what is more	
30		moreover	b	like	they play TV game.
31				then	
32			b		they play TV games and use the Internet.
33			also		they spends time on playing TV game or on sending E-mail including
34					they watch TV or play computer game.
35	for example	furthermore		what is more	they play the TV game and watch the TV.
36					they play the computer game.
37		finally		b	
38			moreover		playing with their frireds and going shopping.

(1) ~ (4)までは誤答例を記入。正解はblank。bは何も書けなかったことを表す。

比較・対照

	(1)	(2)	(3)	(4)	
1	on the other hand	unlike	Howev	Despite	sometimes nicknames are used toward adults.
2	even if			on the other hand	adults do not use it so often
3				compared with	they are uncommonest among adult
4					nicknames used in the company
5	While				not among adult
6					they aren't commonest among adults.
7				although	they aren't commonest among adult.
8					they are used by adults
9					
10	a			Whereas	also adults sometimes use them.
11					
12				but	they are very awful, because they don't think feeling.
13		However	But	nevertheless	sometimes they injure anybody it.
14					
15	however	while	on the	although	it is common among adults.
16	though	b	b	b	
17		despite			some adults use it
18			But	Though	
19	even if	rather	in spite	b	

20			b	
21			while	adult sometimes use them too.
22		But	However	it may hurt someone.
23			b	adults aren't
24				
25	b		b	not common among adult
26			b	
27				
28				the team used to
29		But	Even if	
30	nevertheless	But		adults doesn't understand.
31				
32	nevertheless	While	Even if	they are used by bussiness
33				they are not among adults because to express feeling toward a person in public is avoided in society.
34		on the other hand		they are used among adult.
35	b	despite	but while	
36		on the other hand		
37	b	b	b	
38				they are not official name.

(1) ~ (4)までは誤答例を記入。正解はblank。bは何も書けなかったことを表す。

因果関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	
1			cause		they can communicate with each other directly.
2		as a result of	is caused		it enabled us to do most thing tht we wanted to
3					
4					they want to convenient one to send e-mail
5					
6					they can use it freely at any time.
7					they can give some a ring anytime, anywhere
8					they can call their friends or send a e-mail freely
9		result in			
10	therefore	cause	cause		
11					
12		therefore	due to		they can talk with others
13					cell phones are able to take much information
14			cause		
15					it is able to talk with some friends.
16			b		
17			cause	b	
18					they can talk with their friends free for it.
19	consequently	cause			
20		cause	ha an effect on		cell phones are useful and they are very compact.
21		cause	cause is responsible		it is very useful for them.
22			b		
23			b		they are small and very right.
24					
25		cause			they can use them everywhere.
26			cause	have an effect	
27					
28					they want to call their friends everytime.
29					
30		since	cause		they can feel free to call on their friends, brother, and sister.
31	b	b	b	b	
32			cause		they can call everyone in every place by it.
33			cause		they can touch a new world through the internet furnished the cell phone with.
34	for		as a result of		cell phones made it easy to communicate each other.
35	consequently		cause	consequently	they want to have a free time.
36	consequently	b	b	b	they promise their playing one another.
37	b	b	b	b	
38		have an effect	cause		it makes them possible to communicate with many people.

(1) ~ (4)までは誤答例を記入。正解はblank。bは何も書けなかったことを表す。

考察

前置詞と接続詞、副詞、動詞など品詞の特徴を前もって確認するべきであった。接続詞と前置詞、副詞と前置詞(Instead / Instead of, Nonetheless / In spite of)の違いについて、生徒に混乱が見られた。また、英文の意味がわからず答えられない生徒も目立ち、易しい英文を提示するべきだったと反省した。

ワークシート 4

The ship Mermaid is going to be wrecked and the people on the ship decide to swim to the nearest island. You can take only three items with you. These are the items on the ship. Choose three items and write your reasons why you choose them.

items

a radio	a life jacket	a knife	a rope	a flashlight	canned food
a gun	a box of matches and some candles			water	

3 年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

< 生徒の作文例 >

Student.1

I choose these items: a knife, a rope and a box of matches and some candles. Knife and rope help me to catch some animals to eat. And in case, they help to kill myself when the situation gets too hard to survive. A box of matches and some candles help us to get water. Probably, the island I land on may be surrounded by sea. So, I can't get water to drink. But I can get water and salt from sea water by boiling it.

Student.2

First of all, I'll choose a life jacket. As it help to float in water, we can swim for a long time. Second, I'll choose a flashlight. A flashlight is useful. When it gets dark, we can't see our environment around us very much. It is dangerous for us to swim without knowing where we are. Third, I'll choose water. Water is important item.

Student.3

I choose a life jacket, a knife and canned food. First, a life jacket is very important to swim from the sip to the nearest island. Second, if the island is deserted, a knife is very useful for everything. Third, our body need much water to survive.

Student.4

I'll Choose a radio, a flashlight and canned food. First, a radio enables us to get the latest information. Second, we can't see anything at night if we don't have a flashlight. Third, we have to eat something in order to survive.

Student.5

First, I choose a life jacket because the nearest island may be too far to reach. Second, I choose water. If the nearest island is a dessert, we will need water. Finally, I choose a flashlight. It can send SOS to ships.

Student.6

First I am going to take a gun because I must hunt something to eat. Second, I am going to take water. If there is no river in the island, I can't drink water. Finally I am going to take a knife because it is useful to make a raft of logs.

ワークシート 5

E-mail vs Letter

Eメールと普通の手紙の長所・短所を挙げなさい。

	Eメール	普通の手紙
長所	ex. It is very speedy. -----	ex. A hand-written letter has warmth. -----
短所	ex. Reading on a screen is very impersonal. -----	ex. It takes a long time to arrive. -----

上の表に基づいて、自分の意見を述べなさい。

3 年 組 番 氏名 _____

< 生徒の作文例 >

Student.7

I like to use E-mail. Because E-mail is very speedy. The letter takes a long time to arrive. But the forms of words in E-mail are monotonous.

Student.8

I think letter is better than e-mail. Although it takes a long time to arrive and I must buy stamps to send, I think that a hand-written letter has warmth and many loves. So I like letter.

Student.9

E-mail is very speedy. On the other hand, letter takes a long time to arrive. And e-mail is cheaper than letter because letter must pay cost of stamp. But e-mail is very impersonal and letter has warmth. I can't decide which is better.

Student.10

E-mail is very speedy and easy to send. What is more, it is reasonable. But it is difficult for us to express what we really think. A hand-written letter has warmth and it is easy to express what we want to tell. But it takes a long time to arrive.

Both have advantages and disadvantages. I think both are good.

Student.11

Email and letter have both advantages and disadvantages. As to Email, we can use it wherever we are, but it is often used just to kill time. While as to letter we can feel writer's feelings by words, it takes a long time to write.

So I think both Email and Letter are important for us.

エッセイ・ライティングの実践

1 指導目標

今までに強い印象を受けたお気に入りの場所を分かりやすく紹介する。

2 評価規準

- ・具体的で説得力があり、分かりやすい表現で考えを書くことができる。(表現の能力)
- ・文法、語法的に正確に自分の体験を書くことができる。(表現の能力)

3 指導過程

"Write an essay in English of 70-90 words describing a place that has made a strong impression on you." という課題を提示する。

教師が自分の体験に基づいた文章を、ゴールイメージとして示す。

隣の生徒と 10 分間、日本語で互いに紹介させる。

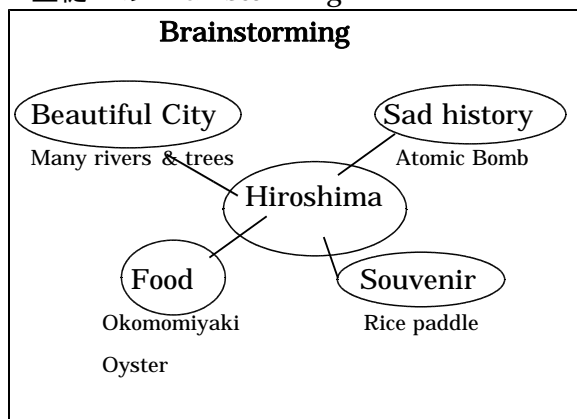
ブレインストーミングをさせ、その後、アウトラインをワークシートに箇条書きで書かせる。

完成したエッセイを提出させ、教師からのコメントを加えて生徒に返し、後日、書き直させて再提出させる。

< 教師が示した例 >

The place is the cape of "Shiretoko", which is located in the northeast of Hokkaido. There aren't any roads or paths between the cape and the nearest village. So, in my school days, I fought my way there through a clump of bushes on the mountain ridge with my friends for a week. When we, at last, reached the cape, we found that the goal, the cape was grassfield full of flowers. I won't forget the scenery. (77 words)

< 生徒 A の Brainstorming >



< 生徒 A の Outline >

Outline

The place is Hiroshima.

1. Hiroshima has a sad history.
Atomic Bomb Memorial Dome.
2. Hiroshima is a beautiful city.
Hiroshima is full of rivers & trees.
3. I bought souvenirs at shops
4. I can eat delicious food, oyster.

< 生徒 A が書いた文章 >

I went to Hiroshima on a school trip. Hiroshima has a sad history. Atomic Bomb Dome has a sad history. I like Hiroshima the best of all the cities. I bought many souvenir at shop and ate delicious food, Okonomiyaki. Hiroshima is called "River City". Hiroshima has many rivers and trees. So, Hiroshima is beautiful. So, I came to like Hiroshima. (61 words)

<教師からのコメント>

souvenir と shop は複数形です。それをもう一度考えてください。Hiroshima の繰り返しが多いと思います。第2文と第3文は同じ内容になっていますから、関係代名詞で1文にしてみてもいいがですか。つなぎの言葉(理由を導く because、並列で情報を追加する also など)は重宝するよ)や代名詞(it とか they)を使って、文と文のつながりを考えてみよう。また、悲しい街と美しい河の都とはどうつながるのか考えてみよう。最後の文は4番目の文の繰り返しになっています。まとめの文を工夫してみよう。よく書けていますが、何に感動したのか考えて、もう一度書いてください。



<生徒 A が書き直した文章>

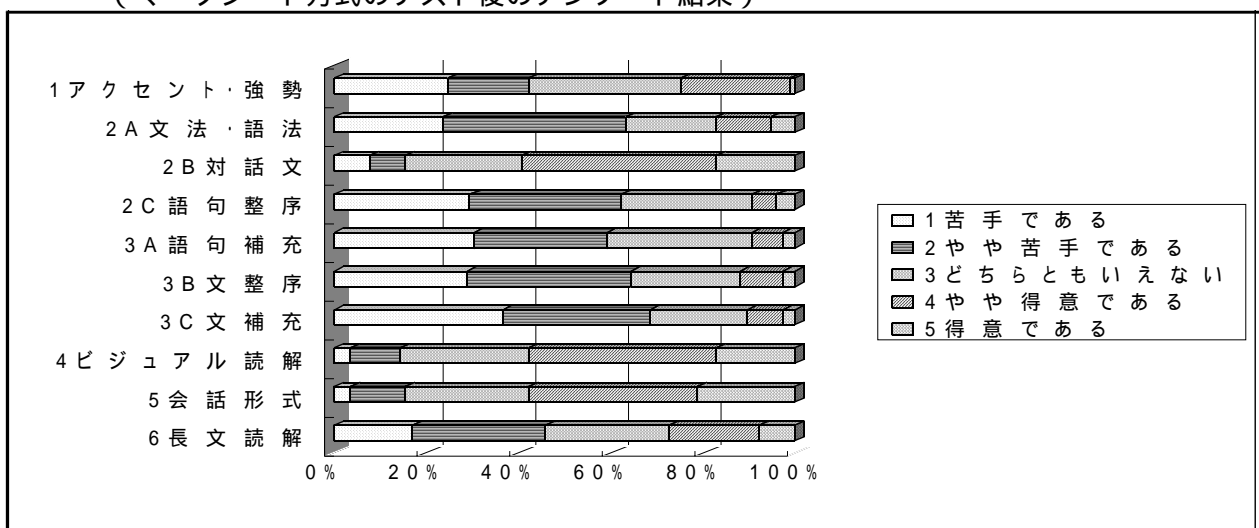
I went to Hiroshima on a school trip. I visited Atomic Bomb Memorial Dome, which has a sad history. Many tragic pictures in the Dome made me think how important peace is. Hiroshima, however, is not what it was when the atomic bomb was dropped. It has many rivers, which there are trees and beautiful parks around. Its streets are also wide and full of greens. So, some day, I want to visit it again with my wife, and to eat oysters with her.

(84 words)

考察・まとめ

1 学期の校内実力テストにおいて、英文を読みそれに対して自分の意見を英語で述べる問題を出題した。ところが、何も書いていない答案が多かった。また、7月、マークシート方式のテスト後に実施したアンケートでは、語句整序や文整序問題を、他の問題より苦手と考えている生徒が多数存在する結果が出た。これらより、自分の意見を英語で述べたり、文を文法的に正しく組み立てたり、複数の文を論理的に構成したりすることに、苦手意識をもっていることが分かった。

(マークシート方式のテスト後のアンケート結果)



1 学期の段階では、日本語である程度構成を考えてから、文章を書く作業を行った。(「自分史作成」参照) この段階では文法的な正しさよりも書くということに重点を置いたことと、具体的な例を示すことによって、クラスの半数程度の生徒は、それを参考にしてまとまりのある文章を書いてい

た。

2学期に入ってから、文と文とのつながりに関係する表現について取り扱った。(「つなぎことば」の活用参照)ワークシート1～3は文章が曖昧であったり、単語そのものが難しく前後から類推できない内容になってしまった。加えて品詞の理解が不十分で、問題によっては極端に悪い結果となった。しかし、ワークシート4、5では、自分の意見を述べる際に、文と文の間に「つなぎの語句」を用いて、ある程度まとまった内容の文を一定の型で、書くことが徐々できるようになってきた。2学期の最後に、まとまった文章の表現を試みた。(「エッセイ・ライティングの実践」参照)書く前に、日本語で隣の生徒と話させたり、ブレインストーミングをさせたり、アウトラインを書かせたりしたところ、書く活動にスムーズに入れた。添削せずにコメントを書いて返却し、そのコメントを頼りに書き直させた。生徒は自分の誤りに気付き、意外と意欲的に書き直しに取り組んでくれた。丁寧に細部にわたるコメントは効果があると実感できた。

今後の課題の1つは、文法的に正確な文を書けるようにするにはどうしたらいいのかということである。今回は、文の正確さよりも、まず、楽しく自分の意見を書くこと、さらに1文単位のライティングとまとまった文章のライティングとの間に、適切な指導を試みることに主眼を置いた。しかしながら、やはり、正確な文構造の習得は、ライティングの役割として欠かせないものである。コメントをただ書くだけではなく、生徒たちにコメントを頼りに「書き直し」をさせ、自ら誤りに「気付かせる」ことが重要である。効果的なコメントの書き方をこれからより一層研究し実践していきたい。

もう1つの課題は、リーディングの時間にいかにライティングを組み合わせしていくかである。今年使用したライティング教科書の構成は、まとまった文章を読み、そのパラグラフ構造をつかんだ後、それを応用して「つなぎのことば」をつかって文章を書くものであった。今後この研究を生かし、リーディングとライティングとを関連付けて指導していきたい。

おわりに

外国語科(英語)の学習指導要領では「実践的コミュニケーション能力の育成」が教科目標であり、評価では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が、観点の一つになっている。伝統的な英文和訳、和文英訳、文法問題演習だけではなく、生徒と生徒との間での、また、生徒と教師との間でのコミュニケーション活動を通して、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを織りまぜながら指導することが求められている。覚えることを目的とした個人的なドリル学習に終始することなく、意味のある場面で意味のあるコミュニケーション活動を授業の中に取り入れることが、今後の英語指導の課題である。生徒の英語運用力、受験指導等の現実的な問題もあるが、各事例ともにコミュニケーション(自己表現)活動を工夫し、実践している事例である。**事例1**では、Slow Learners に対するコミュニケーション活動の例を示した。**事例2**と**事例3**は、受験を間近に控えた生徒に対するコミュニケーション活動の例である。各事例を参考にしつつ、各学校の実態に応じて工夫していただきたい。

1 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を育む指導の工夫

3つの事例では、各学年の1年後の到達目標、あるいは、各活動ごとの到達目標を明確に示し、楽しい、単純な活動から複雑な活動へと段階的な指導を実践した。特に初期の段階では、表現の正確さを生徒に求めず、「友人に伝えたい」という気持ちや「友人に伝わった」という達成感を重視する指導が、生徒の苦手意識を取り除き、生徒の英語への関心・意欲を形成することにつながった。また、生徒は、友人の作品を読んだり聞いたりして、「私にもできる」といった自信や意欲をもち始めた。生徒同士が相互に学ぶためにも、グループ活動やペア活動、生徒相互の評価を計画的に取り入れることが、今後より一層、求められる。グループ活動やペア活動をするには、生徒同士の信頼関係や生徒と教師間の信頼関係、さらに英語を使うことへの積極性が不可欠であるが、一方で、グループ活動やペア活動こそ、そういった信頼関係や英語を使うことへの積極性を築くために必要不可欠なものと言える。今後、より一層グループ活動やペア活動を授業の中に取り入れていただきたい。

2 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」と関連付けて「書くこと」を指導する効果

事例1や**事例2**では、書く前に、聞いたり話したり読んだりすることで、相手を意識した表現活動が可能になり、書くことの目的や書く内容が明確になり、徐々に書く分量が増えてきた。特に**事例1**の「ドラマ作成」や、**事例2**の「リーディング活動と結びつけたライティング活動」では、口頭による自己表現活動を繰り返し行ううちに、文章での表現にも自信をもちはじめ、逆に、文章での表現を重ねるうちに、口頭による表現活動にも積極的になるなど、話すことと書くことが相互に関連していた。また、書くことは、文の構造に対する意識を芽生えさせ、書くときはもとより話すときにも正確に表現しようとする意欲につながった。4技能を織りまぜたコミュニケーション活動は、学習意欲を喚起させることが分かったが、この活動には、学習した知識を定着させる効果があることも、今後検証したい。

3 生徒の実態に応じた段階的な活動の設定と診断的な評価の工夫

生徒の実態を捉えて、校内行事や進路指導、他教科の学習内容等と連携させて、段階的に無理のない活動を提示することが重要である。そのためにも、日頃の観察や年度当初のアンケート、診断テスト、インフォーマル・インタビュー等を通して生徒理解に努めることが大切である。**事例1**、**事例2**では、事前アンケートを行い、生徒がどこでつまづいているのか、何に興味をもっているのかを調べ

た。また、**事例2**では到達目標を立てるために、事前に診断テストを行い、無理のない目標を設定した。**事例1**では、校内行事に関連付けて修学旅行先の地図を使い、生徒の興味を引く工夫をした。到達目標を明確に生徒に示すためにも、生徒理解に基づいた生徒と教師間の信頼関係を築くためにも、診断的な評価を年度当初に行うことが重要である。

4 形成的評価の工夫

3つの事例では、生徒の書いた文章の誤りを教師がすべて添削するのではなく、教師のコメントや生徒相互の発表を通して、生徒に誤りを気付かせ推敲させる機会を設定した。特に、**事例1**や**事例3**では、コメントを参考に書き直させることによって、正確に書こうとする意欲が生徒に表れてきた。生徒自らの「気づき」を大切に、コメントを書く際には、生徒の学習意欲を高めるようなヒントやアドバイスを工夫することが重要である。

5 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の育成と「書く力」の向上との関連付け

ライティング活動のねらいの中には、文構造の習得や文を正確に書く力の向上もある。3つの事例では、「自分の思いを自由に伝えさせること、及び、コミュニケーションが楽しいと思わせること」が学習のねらいであったが、このことと、「書く力」の向上とを同時に達成させること、つまり、語彙・文法を確かなものにさせることが今後の課題である。「just-in-time learning（必要になった時に、その場で学ぶ）」としての自己表現活動と、単語や表現を覚えたり、系統立てて文法を学習したりするドリル学習とのバランスをとることが必要である。

**高等学校における教科指導の充実
外国語科（英語）**

発 行 平成18年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303